

徳島県観光振興基本計画 第2期(平成27~30年度)

<素案>

平成26年11月

徳 島 県

目 次

徳島県観光振興基本計画（第2期）の策定にあたって	・・・	1
（観光の持つ意義）	・・・	1
（観光振興基本条例の制定）	・・・	1
（徳島県観光振興基本計画・第1期（平成22～26年度）の成果）	・・・	2
I 徳島県観光振興基本計画（第2期）の基本的な考え方	・・・	3
1 計画策定の趣旨	・・・	3
2 計画期間	・・・	3
3 計画の検証	・・・	3
II 徳島県の観光を取り巻く環境変化と課題	・・・	4
1 徳島県の観光を取り巻く環境の変化	・・・	4
2 徳島県の観光の現状と課題	・・・	6
III 徳島県の目指すべき姿	・・・	9
1 目指す将来像	・・・	9
2 戦略目標	・・・	10
IV 観光の振興に関する取組み	・・・	11
1 共通コンセプト	・・・	11
2 誘客キャンペーンの展開	・・・	11
3 取組みのスキーム	・・・	11
V 3つの核となる重点施策	・・・	15
1 観光目的客の取り込み～個人旅行の誘客促進～	・・・	15
2 ビジネス目的客の取り込み	・・・	20
3 「訪日外国人2000万人時代」に向けた取組み	・・・	21
VI 7つの基本方針	・・・	23
1 将来の観光を担う人材の育成	・・・	23
2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり	・・・	27
3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進	・・・	38
4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立	・・・	42
5 国際観光の推進	・・・	48
6 広域観光の推進	・・・	53
7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出	・・・	55

徳島県観光振興基本計画（第2期）の策定にあたって

【観光の持つ意義】

徳島県は、「鳴門の渦潮」、「県南の海」、「剣山」、「吉野川」、「大歩危峡」など心癒される豊かな自然、世界に誇る伝統芸能「阿波おどり」、「阿波藍」、「阿波人形浄瑠璃」、「ベートーヴェン第九 アジア初演」などの「あわ文化」、「うだつの町並み」、「祖谷のかずら橋」といった歴史的・文化的遺産に加え、豊富で新鮮な食材に恵まれるなど、魅力あふれる観光資源を有する「宝島」であり、多くの観光客に選択される観光地づくりの可能性に満ちあふれています。こうした強みを生かした観光への取組みの中で、地域に住む人々にとっても歴史や文化への理解が深まり、地域への誇りと愛着が育まれるなど、地域に活力が生まれます。

また、今後、定住人口は減少する見込みであり、これを補うには、交流人口の増加を図る必要があります。観光交流の拡大が様々な産業に波及し、地域経済の活性化、雇用機会の拡大、潤いのある豊かな生活環境の創造等につながります。

【観光振興基本条例の制定】

「観光立国」の実現が、21世紀の我が国経済社会の発展のために不可欠な重要課題であるとし、「観光立国推進基本法」が平成19年1月に施行され、平成20年10月には「観光庁」が発足するなど、観光に係る位置づけや組織が体系的に整えられ、各地方公共団体においても「地域の特性を生かした取組み」や「広域連携」が求められるようになりました。

こうした観光を取り巻く状況の変化に対応し、観光の振興を通じて、豊かで活力に満ちた地域社会の実現、経済の発展及び県民生活の向上につなげていかなければならないという認識の下、県、市町村、県民、観光事業者、観光関係団体等の総力を結集し、それぞれの立場で協働して観光の振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進するために、「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」が制定され、平成21年6月25日に施行されました。

【徳島県観光振興基本計画・第1期（平成22～26年度）の成果】

「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」に基づき、観光の振興に関する施策の戦略的かつ積極的な推進を図るため、平成22年3月に「徳島県観光振興基本計画（第1期）」を策定しました。

県民、観光事業者、観光関係団体等が、広く観光についての関心と理解を深めるとともに、観光振興に関する共通の認識を持ち、県を挙げて観光振興に取り組む気運を醸成するために、「観光キャッチコピー」、「阿波とくしま観光の日」及び「阿波とくしま観光週間」を設けました。

<観光キャッチコピー>	きて・みて・なっとく！おいでよ徳島。
<阿波とくしま観光の日>	10月9日
<阿波とくしま観光週間>	10月9日を含む月曜日から日曜日の1週間

「戦略目標」として、「宿泊者数」、「コンベンション参加者数」などの数値目標を設定するとともに、「将来の観光を担う人材の育成」、「『阿波とくしま』の魅力あふれる観光地づくり」、「新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進」など7つの基本方針を掲げ、県、市町村、県民、観光事業者、観光関係団体等の総力を結集し、それぞれの立場で協働して観光の振興を推進しました。

平成25年3月には、体験型観光に携わる関係者が全国各地から集う「全国ほんもの体験フォーラム」が中国四国地域で初めて開催され、本県の「体験型観光先進地」としてのブランドを全国にアピールするとともに、「南阿波よくばり体験推進協議会」や「そらの郷」をはじめ県内の各圏域で体験型観光の取組みが進められました。

また、平成25年4月には「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」が新観光圏制度において、中国四国地域で唯一となる認定を受け、世界に通用する国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを官民一体となって進めており、外国人宿泊者数が増加しています。

さらに、平成26年は、4月からの本四高速の全国共通料金化や、四国霊場開創1200年をはじめとする周年事業が重なるエポックメイクの年であり、このエポックメイクの年を見据え、平成25年10月9日にスタートした「おどる宝島！パスポート」をはじめとする、「おどる宝島！とくしま」プレキャンペーンを展開した結果、平成25年の本県の延べ宿泊者数は、約226万人となり、対前年比は、全国第3位となる「24%増」となったところです。

平成26年は、「おどる宝島！とくしま」キャンペーンの本格実施などにより、さらに宿泊者の増が見込まれるなど、取組みの成果が発現しています。

○主な目標の進捗状況

	目標値 (平成26年)	現況値 (平成20年)	実績値 (平成25年)
延べ宿泊者数	210万人	170万人	226万人
外国人延べ宿泊者数	50千人	19千人	32千人
コンベンション参加者数 (中四国大会以上)	110千人	79千人	96千人

I 徳島県観光振興基本計画（第2期）の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

政府においては、平成26年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」を発足させ、人口減少社会への対応をはじめ、「地方創生」に向けての動きが本格化しており、地方においても、国内外からの観光客の流れを戦略的に創出し、交流人口の拡大に向けた取組みが必要となっています。

県においても、「徳島」の知名度の向上、ブランド・イメージの定着を図るため、「vs 東京」という「共通コンセプト」を策定し、「東京」に取って代わる新しい価値観を提案することにより、本県の魅力を国内外に、強力にアピールしているところです。

平成26年4月に本四高速の全国共通料金化が実現し、今後、平成27（2015）年の大鳴門橋開通30周年のほか、平成32（2020）年の「東京オリンピック・パラリンピック」、平成33（2021）年の「関西ワールドマスタースゲームズ」等のイベント開催が予定されており、本県の観光にも大きな効果が期待できます。

こうしたチャンスをしっかりとつかみ取り、観光客・宿泊者数を増加させ、本県のさらなる飛躍に繋げるため、新たな「観光振興基本計画」を策定するものです。

2 計画期間

観光振興基本計画は、県政運営方針である「いけるよ！徳島行動計画」を実現するための分野別計画であり、整合性を図るため、平成27年度から平成30年度までの4年間とします。

3 計画の検証

県民ニーズや社会・経済情勢の様々な事情の変化に適切に対応し、観光振興基本計画の円滑な推進を図るため、計画に基づき実施された観光の振興に関する施策について、毎年度、成果を検証の上、PDCAサイクルにより、必要な見直しを行うとともに、その概要について、県庁ホームページ等で公表します。

II 徳島県の観光を取り巻く環境の変化と課題

1 徳島県の観光を取り巻く環境の変化

人口減少、少子高齢化社会の進行

日本の総人口は、平成17年に戦後初めて前年を下回った後、平成22年をピークに減少に転じており、今後も減少することが見込まれ、国立社会保障・人口問題研究所によると、平成60年には1億人を割り込み、平成72年には、8,674万人になるものと推測されています。

本県の人口も、昭和25年の878,511人をピークに減少傾向にあり、また、高齢者の割合も平成21年には、26.6%まで上昇し、全国平均(22.7%)を上回る速度で増加しています。観光庁の試算によると、定住人口1人当たりの年間消費額は、外国人旅行者10人分、国内宿泊旅行者26人分に相当するものとされており、観光の交流人口増大による地域経済活性化を図るため、国内観光需要をタイムリーかつ的確に把握し、その動向を踏まえた有効な観光振興施策の展開が求められています。

交通利用環境の変化

平成26年4月には「本四高速の全国共通料金化」が実現するとともに、平成26年度には、鳴門ジャンクションと徳島インターチェンジが結ばれて「本四高速道路」と「徳島自動車道」が直結する(※予定)ほか、「四国横断自動車道・松茂パーキングエリア」へのスマートインターチェンジ設置に伴う「徳島阿波おどり空港」と「高速道路」の直結(※予定)や「徳島小松島港沖洲ターミナル」の耐震強化による大型船舶化への対応、航空便においても「徳島ー東京線」が過去最高となる12便への増便など、交通体系が飛躍的に進化しています。今後、それらに対応した情報発信、受入態勢の整備など誘客に向けた取組みが求められています。

県内の訪日外国人の状況

本県の延べ宿泊者数は、国・地域別で見ると、平成21年から平成24年までは、アメリカまたは中国が1位でありましたが、平成25年7月から8月にかけて、香港から本格的な国際チャーター便が12往復したこと等により、平成25年に初めて、香港が1位となりました。

また、団体だけでなく、公共交通機関やレンタカーを使う個人旅行者も増加しており、「教育旅行」、「医療観光」、「遍路」などの「ニューツーリズム」や、「MICE」など、旅行目的も多様化してきています。

旅行形態の変化

個人の価値観やライフスタイルの多様化は、観光旅行の形態にも変化をもたらし、団体旅行が減少し、家族、友人、知人等と出かける個人旅行が主流となっています。また、インターネットなど観光情報の入手方法も多様化しており、様々な情報をもとに、個人の嗜好や興味・関心にあわせ、旅行形態も多様化しており、観光地では、こうした変化やニーズを踏まえた個性的な取組みが求められるようになってきています。

旅行会社を取り巻く状況変化

地域独自の魅力を活かした体験や地元の人とのふれあいができる「着地型旅行」の商品提供を促進するため、営業所の存する市町村及びこれに隣接する市町村等の限定された区域についてのみ、企画旅行、手配旅行等を行うことのできる旅行業の類型として「地域限定旅行業」が平成25年4月に創設されました。また、平成26年7月には、貸切バスの新運賃・料金制度がスタートしており、旅行会社のニーズに的確に対応した取組みが求められております。

情報化社会の進展

情報通信技術の飛躍的発展によって、時間や距離の制約は克服され、自由に国内外の情報にアクセスし、コミュニケーションをとることが可能になり、インターネットや携帯電話、スマートフォンの普及によって、いつでも、どこでも誰でも様々な情報ネットワークの恩恵を受けることができるようになってきています。こうした中、情報通信技術の発達に対応した効果的な情報発信を進めるとともに、多くの情報が氾濫する中で、本県の魅力ある観光情報を適時適切に情報発信することが求められています。

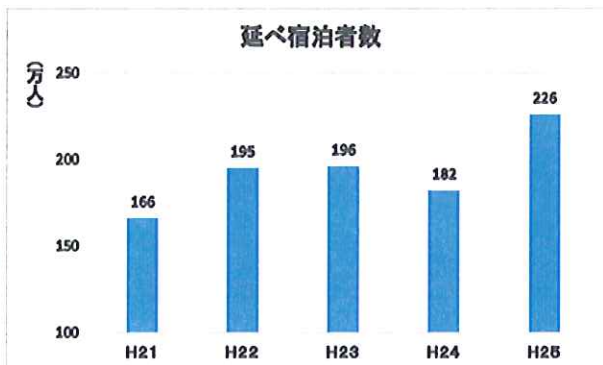
国の観光施策の強化

観光立国の実現は「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）の戦略市場創造プランのテーマにも掲げられている重要課題であり、政府においても、「観光立国推進閣僚会議」の開催等、関係行政機関との緊密な連携を確保し、効果的かつ総合的に取組みを推進するなか、平成26年6月には「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」がとりまとめられました。本県においても、国の観光施策の強化の動きと連動・連携し、効果的な観光振興施策の展開が求められています。

2 徳島県の観光の現状と課題

宿泊者数

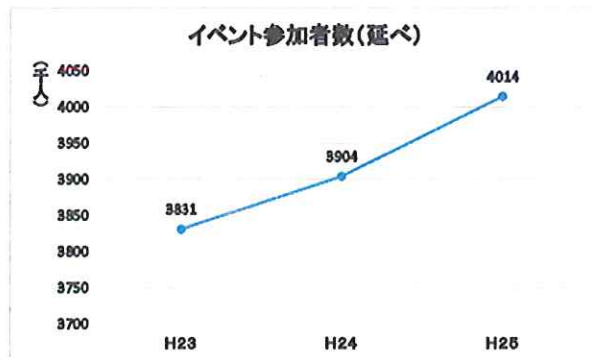
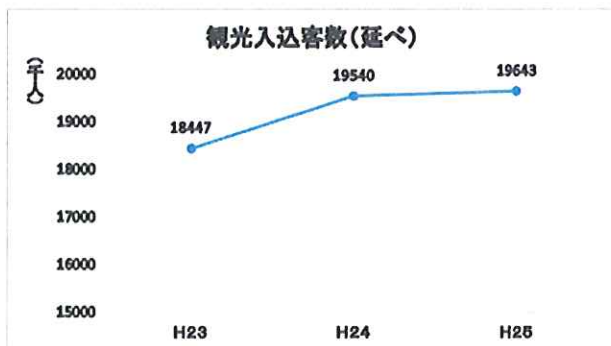
平成25年の延べ宿泊者数は、約226万人となり、平成24年の約182万人から約44万人増、率にすると全国第3位となる24%増となりました。今後とも、この流れを持続できるように自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれる本県の魅力を活用した観光誘客と宿泊促進に戦略的に取り組む必要があります。



「宿泊旅行統計調査 (観光庁)」

観光入込客数

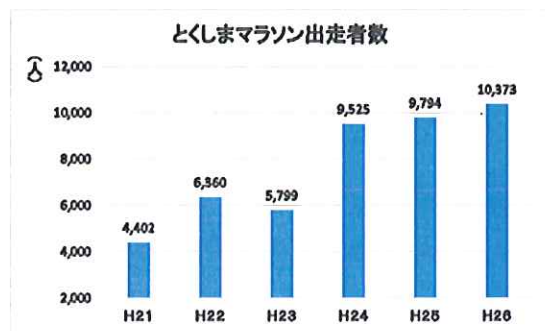
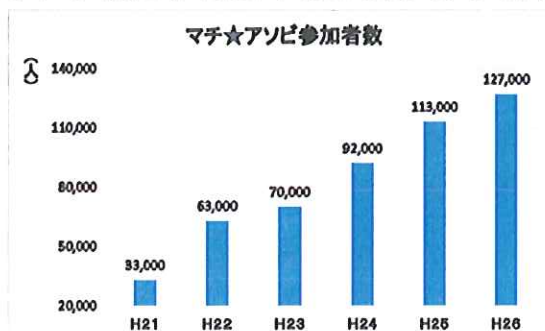
平成22年4月から観光庁が策定した共通基準に基づき、観光入込客統計を実施しています。年間値のある平成23年以降の観光入込客数は、増加傾向にあり、特に、イベント参加を目的とした観光入込客が増加しています。近畿と四国の結節点という地理的特性を活かした、県外入込客の増加に取り組む必要があります。



「観光入込客統計 (観光庁)」

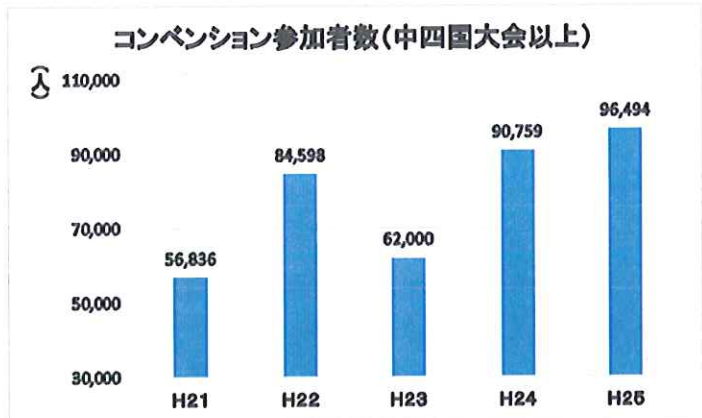
イベントの開催

「マチ★アソビ」や「とくしまマラソン」といった「徳島ならではの」イベントの参加者数は、増加しており、内容や受入態勢の充実など、より集客力を高める取組みを進める必要があります。



コンベンションの開催

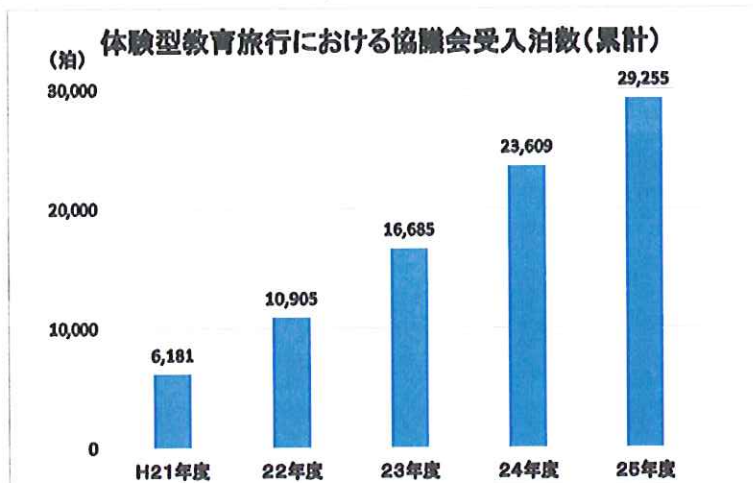
コンベンションの開催は、宿泊・飲食・交通など多分野にわたり大きな経済効果が期待できることから、これまで大会開催経費への助成等による誘致促進を行ってきました。平成25年度には、県、市町村、経済団体、旅館・ホテル団体、旅行業関係団体等からなる「とくしまコンベンション誘致推進協議会」を設立するとともに、開催に係るツールとして、「プラス1泊」してもらうための「とくしまコンベンション支援ガイド」や「観光モデルプラン」、「グルメ・土産物ガイド」の作成や、大規模大会への会場使用料助成など新たな取組みをスタートしました。今後とも、他地域と差別化した「徳島ならではの」積極的な取組みを図る必要があります。



「コンベンション統計」

滞在型観光

最近の旅行者のニーズは、旅先での歴史文化や自然等に直接触れ、地元住民と交流を深めるといった本物志向が高まっているため、訪れた観光客に対し、「感動」を与える地域独自の魅力を創出することが重要になってきています。県南部や県西部を中心に、その定着が図られつつあり、平成25年3月には、中国四国地域で初めて「全国ほんもの体験フォーラム」が本県で開催され、本県の「体験型観光先進地」としてのブランドを全国にアピールすることができました。今後、こうした成果を元に、受入態勢の充実等さらなるレベルアップを図る必要があります。



県産品の振興

県の「大阪・名古屋物産センター」や全国初となる「コンビニ型アンテナショップ」、県外の民間店舗を県が認定する「阿波とくしまアンテナショップ」等において、全国に向けた本県の物産・観光の情報発信に取り組んできました。今後は、各アンテナショップの連携強化やネット販売の充実等により、県産品の振興と観光誘客を一体的に推進する必要があります。



【コンビニ型アンテナショップ】

■アンテナショップの展開

<コンビニ型アンテナショップ>

- ・ローソン虎ノ門巴町店 H21.3～
- ・ローソン・ハイウェイット基山上り店(佐賀) H24.3～H24.5
- ・ローソン飯田橋三丁目店 H25.3～
- ・ローソン札幌南6条西二丁目店 H26.8月限定

<阿波とくしまアンテナショップ>

- ・徳島・香川トモニ市場(有楽町) H22.10～
- ・ええもんあるでえ徳島(銀座) H25.12～
- ・とくしまマルシェ東京店(杉並区) H26.6～
- ・マチ★アソビC A F E(北九州市) H26.11～



【阿波とくしまアンテナショップ】

国際観光

LCC（格安航空会社）などの新規就航等による航空座席供給量の増加や、東南アジア方面に対する訪日ビザの要件緩和などにより、東南アジアからの訪日外客数が増加しています。また、企業の奨励旅行、遍路、アニメといった訪日旅行の目的も多様化しています。このような市場の変化に対応するため東南アジア向けの観光パンフレットをはじめSNSを活用した情報発信、多言語表記の整備など、様々な旅行目的に合わせた外国人観光客の受入環境を充実する必要があります。

広域観光

「関西広域連合」のほか、四国の官民一体で観光誘客を推進する「四国ツーリズム創造機構」、瀬戸内海を有する7県で構成する「瀬戸内ブランド推進連合」の一員として広域での誘客活動に取り組むとともに、兵庫県との2県連携によるツーリズムバス事業など他県と連携した事業にも取り組んできました。今後とも、本県の観光の魅力を創出し、観光客に選択される観光地を目指すとともに、滞在日数の増加を図るため、地域間や近隣府県との広域観光連携による魅力ある広域観光ルートの開発等、各地域及び近隣府県の取組みとの相乗効果の活用を進める必要があります。

Ⅲ 徳島県の目指すべき姿

1 目指す将来像

観光は、将来の定住につながる交流人口の拡大に重要な役割を担うとともに、本県の歴史、文化等に対する県民の理解を深め、県民が地域への誇りと愛着を持つことができる活力に満ちた地域社会の実現を促進するものです。

そして、観光を支える産業は、旅行業や旅館業のみならず、本県の基幹産業である農林水産業や商工業をはじめとする幅広い分野の事業に及ぶ総合的なものであり、地域経済の活性化、雇用機会の拡大、潤いのある豊かな生活環境の創造等、様々な領域に貢献するものです。

こうした観光の振興を県民、市町村、観光事業者及び観光関係団体と協力、協働して積極的に推進することにより、次のような将来像を目指します。

県民が、自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれた徳島に対する誇りと愛着を持ち、徳島の魅力を国内のみならず世界に向け発信することにより、徳島の良さが広く認知され、多くの観光客が訪れています。

「マチ★アソビ」や「とくしまマラソン」が、全国はもとより海外からの参加者でにぎわい、地域経済活性化の牽引役としての役割を果たしています。

お接待の文化に培われた「おもてなしの心」に惹きつけられ、国内外から、多くの観光客が繰り返し訪れるとともに、長期間にわたり滞在しています。

旅行会社において、「癒やし」、「食」など旅行者のニーズに応じた様々な旅行商品が造成されるとともに、徳島を舞台にした映画やテレビドラマ等が数多く制作されたことで、本県を訪れる大勢の観光客でにぎわっています。

国際学術会議、学会、スポーツ大会などが、徳島で数多く開催され、国内外から多くの参加者が訪れ、宿泊、飲食、物産等への経済効果に加え、国際化の進展、競技力の向上など多方面で地域活性化が図られています。

県産品と観光を一体的に売り込むことにより、とくしまブランドのイメージが確立され、県産品の振興が図られています。

2 戦略目標

本県の観光振興を図るため戦略目標を設定し、各種施策に取り組みます。

宿泊者数

226万人(平成25年)

280万人(平成30年)

○年間の延べ宿泊者数を平成30年までに、平成25年から50万人以上の増となる280万人以上にするを目標とします。

※宿泊旅行統計調査（観光庁発表）

外国人宿泊者数

32,310人(平成25年)

80,000人(平成30年)

○年間の外国人延べ宿泊者数を平成30年までに、平成25年から約5万人の増となる8万人以上にするを目標とします。

※宿泊旅行統計調査（観光庁発表）

コンベンション参加者数

96,000人(平成25年度)

130,000人(平成30年度)

○県内における年間のコンベンションの参加者数を平成30年までに、平成25年から3万人以上の増となる13万人以上にするを目標とします。

※徳島県コンベンション統計（一般財団法人徳島県観光協会）

※開催件数は、県内で開催された学会、大会、会議等の催し物で、参集範囲が中国四国地域以上のものの人数。

IV 観光の振興に関する取組み

1 共通コンセプト

平成26年は、本四高速の全国共通料金化に加え、各種周年行事の開催など、本県にとってエポックメイクの年となり、これまでに観光誘客をはじめ様々な成果を得ております。こうした成果を一過性のものとせず、「徳島」の知名度の向上、ブランド・イメージの定着を図るため、平成26年9月に共通コンセプト「v s 東京」を策定しました。自然、文化、食など徳島ならではの優れた資源に自信と誇りを持ち、全国に、世界に徳島をアピールして、しっかりと誘客促進に繋がります。



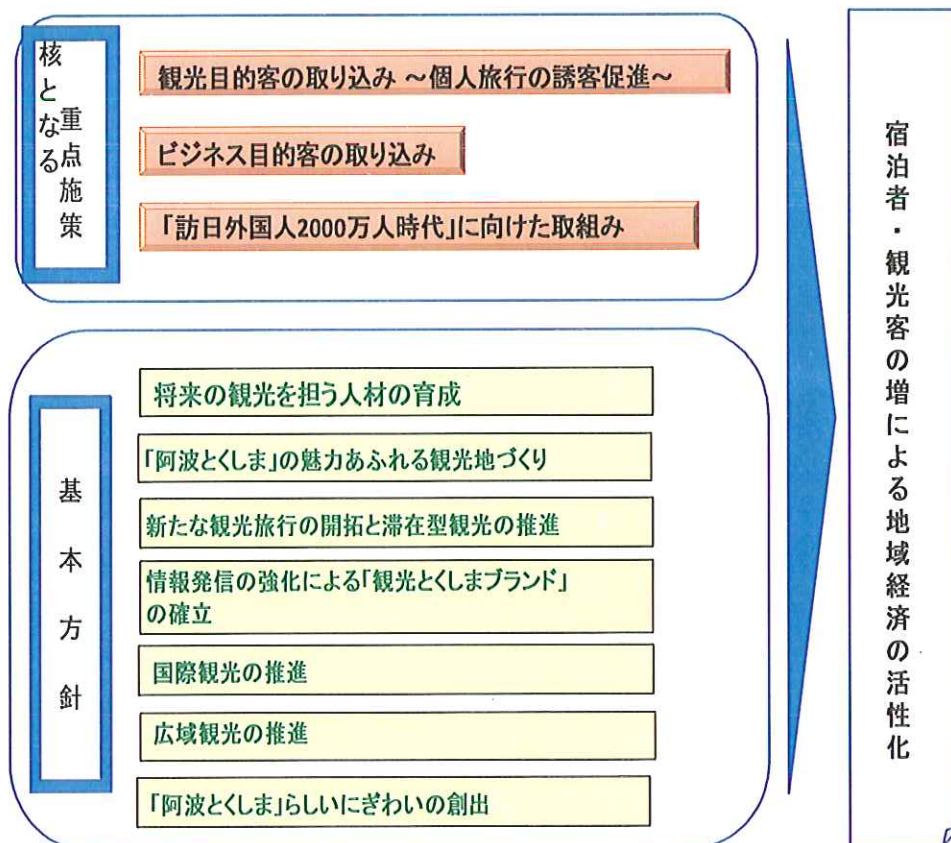
2 誘客キャンペーンの展開

平成26年のエポックメイクの年を見据え、平成25年度からスタートし、観光誘客の推進において定着してきた「おどる宝島!とくしま」を旗印としたキャンペーンを引き続き、展開していきます。

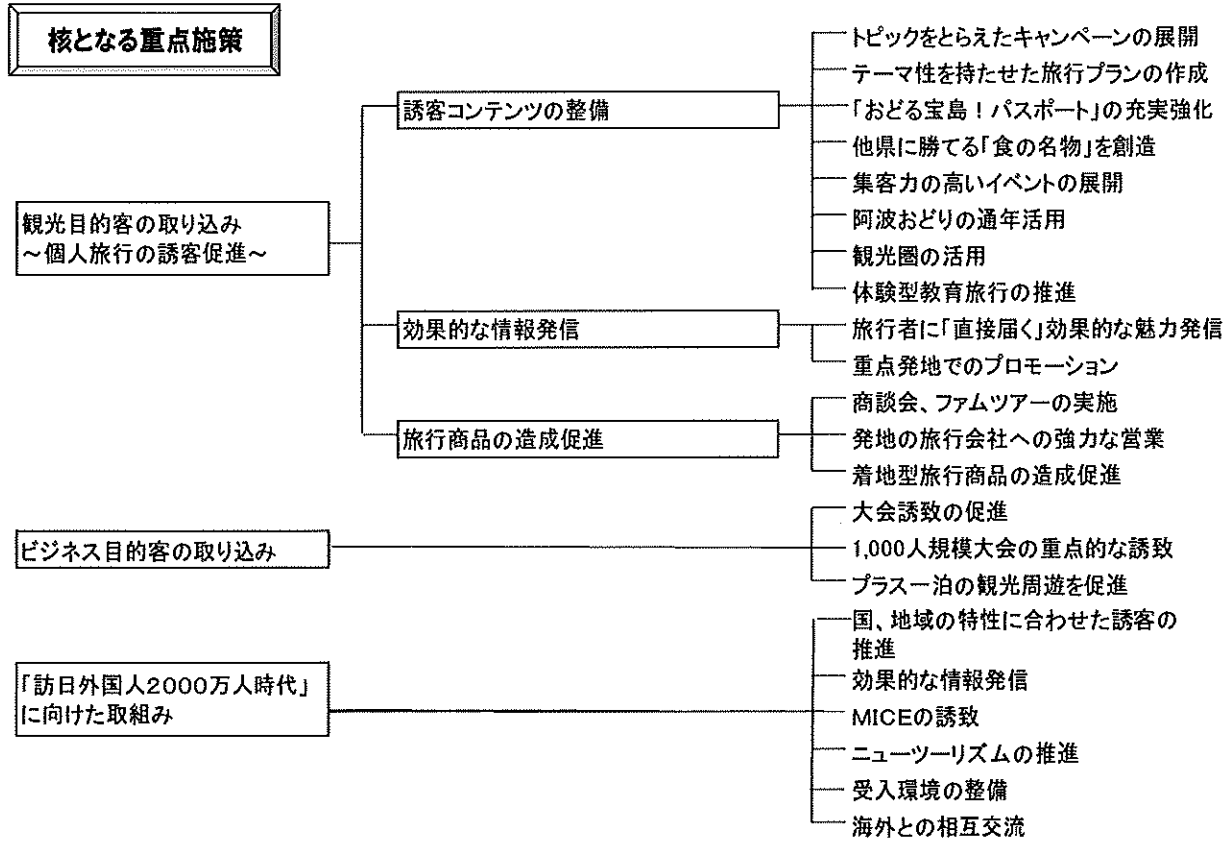


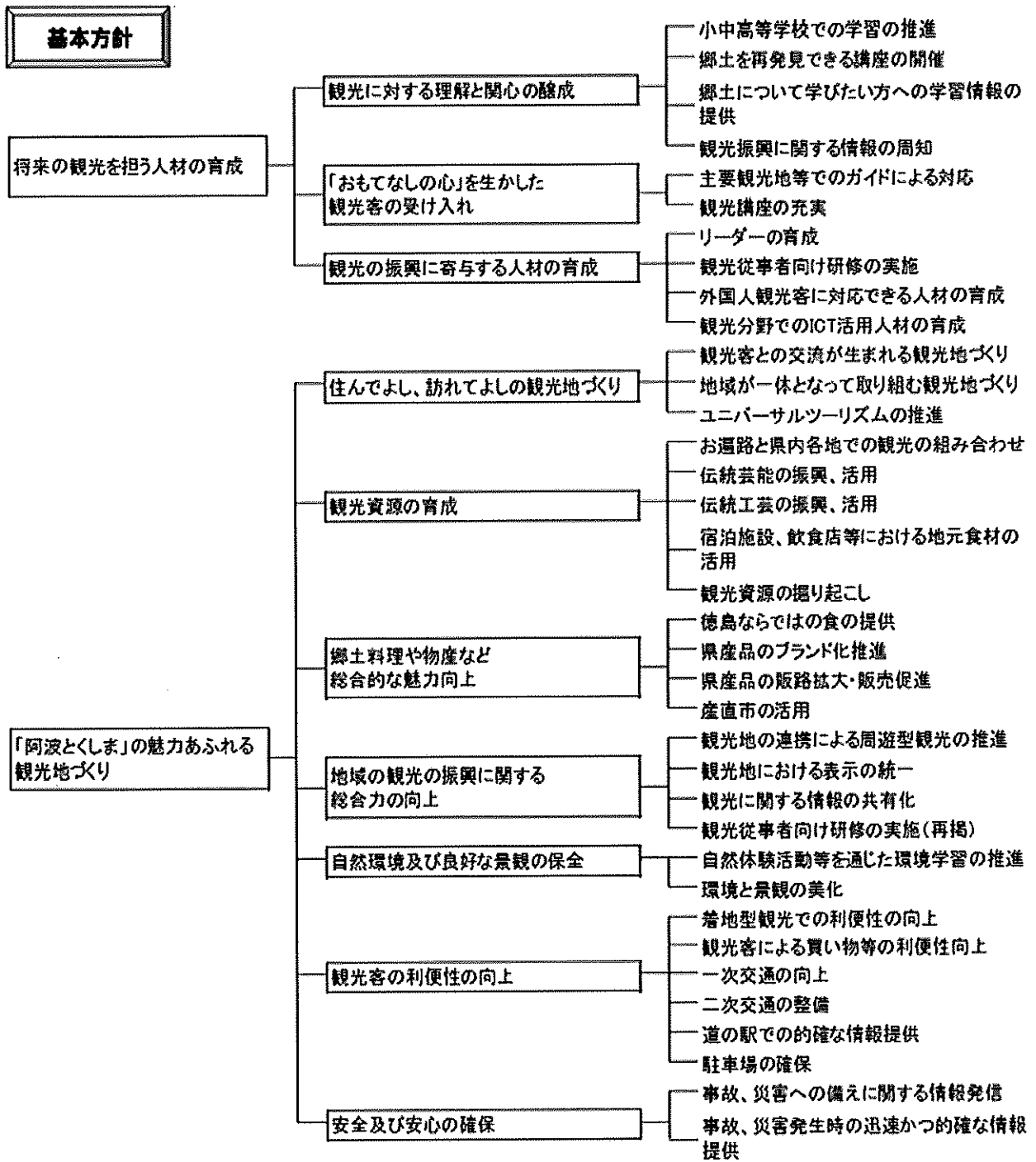
3 取組みのスキーム

「もてなしの阿波とくしま観光基本条例」の基本理念を踏まえ、7つの基本方針をベースラインとしてしっかりと固めるとともに、旅行者と旅行会社のニーズを的確にとらえ、「観光目的客の取り込み」、「ビジネス目的客の取り込み」、「訪日外国人2000万人時代に向けた取組み」の3つを「核となる重点施策」として、「効果の高いところに重点的に打つ」形で戦略的に実施します。

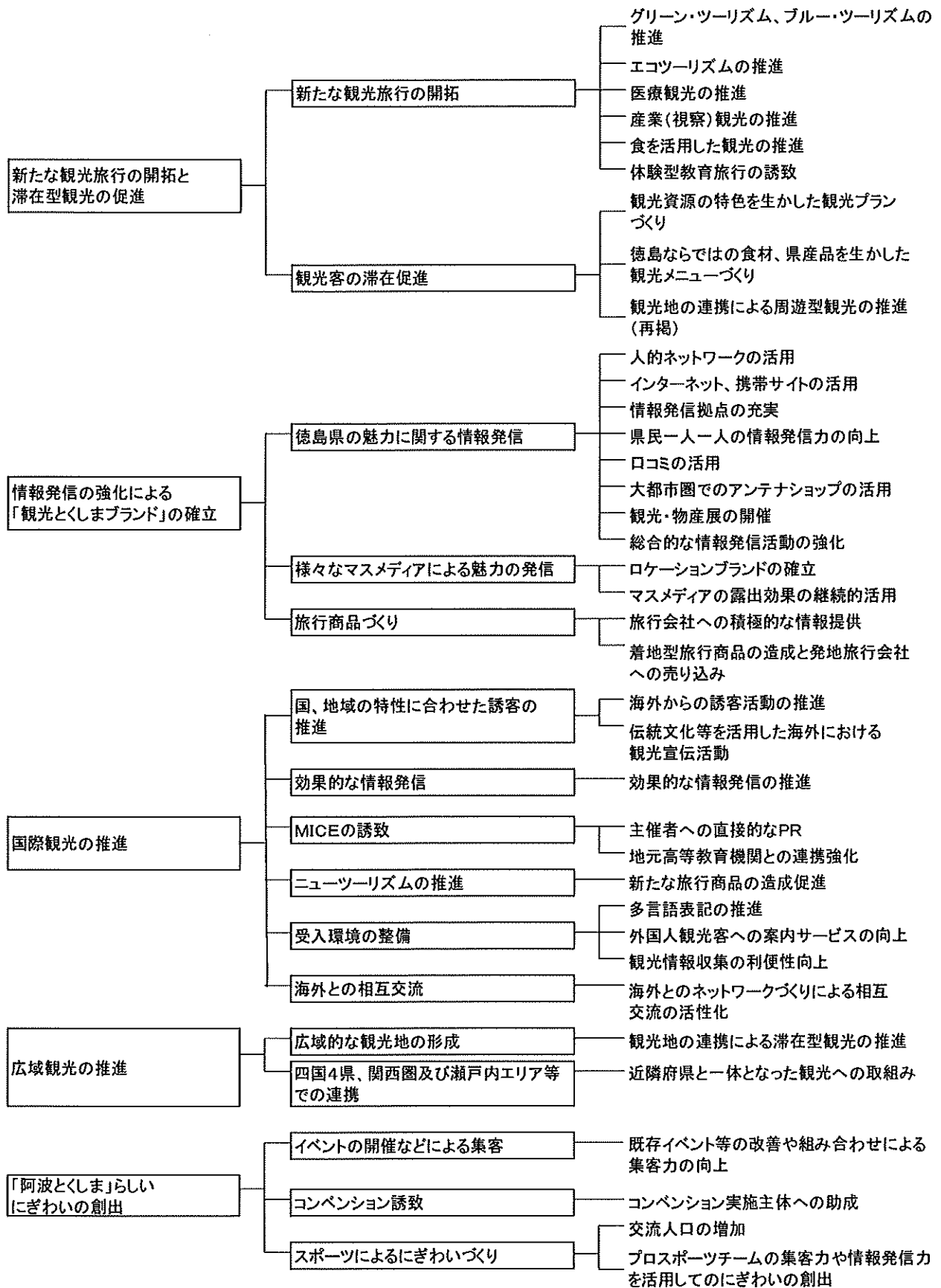


< 施策体系 >





IV 観光の振興に関する具体的な取組み



V 3つの核となる重点施策

1 観光目的客の取り込み ～個人旅行の誘客促進～

個人の価値観やライフスタイルの変化等により、会社の慰安旅行等の団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人旅行が観光の主流形態となっていることから、「個人旅行の誘客促進」につながる施策に重点的に取り組みます。



〔平成 24 年度版 観光の実態と志向 (公社) 日本観光振興協会〕

(1) 誘客コンテンツの整備

トピックをとらえたキャンペーンの展開、テーマ性を持たせた旅行プランの作成、本県ならではの魅力あるイベントの実施など、誘客力の高いコンテンツを整備することにより、徳島旅行の動機づけを図るとともに、「おどる宝島！パスポート」の充実強化や受入態勢の充実によるおもてなしの向上により、リピーター来県の促進に取り組みます。

◎トピックをとらえたキャンペーンの展開

大鳴門橋開通30周年などトピックに合わせ、ストーリー性を持たせたキャンペーンや、他県と連携したキャンペーンの実施など高い効果が見込める観光誘客キャンペーンを展開します。また、季節に応じた旬の魅力を詰め込んだキャンペーンブックを作成します。



【キャンペーンブック】

◎テーマ性を持たせた旅行プランの作成

「女子旅」や「シニア旅」など、ターゲットを絞った旅のプランや、季節ごとに食や文化などのテーマを設定した旅のプランなど、魅力的で「売れる」プランの作成に旅行会社や運輸機関等の関係機関とも連携して取り組みます。



【女子旅パンフレット】

◎「おどる宝島！パスポート」の充実強化

平成25年10月9日にスタートした県内初となる通年型周遊パスポートである「おどる宝島！パスポート」について、「おもてなし施設」の増加やプレゼントのリニューアルのほか、他県との連携など、利用者にとってますます「おトク」で徳島旅行の誘因ともなる観光パスポートとなるよう内容の充実強化に取り組み、おもてなしの向上とリピーター来県の促進を図ります。



【パスポート パンフレット】

◎他県に勝てる「食の名物」を創造

「食」を目的とする新たな観光誘客を図るため、県民による「食」を通じた、おもてなし気運の盛り上げを図るとともに、「阿波尾鶏」、「はも」、「伊勢エビ」、「アワビ」、「なると金時」など本県の魅力ある食材を活用した「食の名物」となる「売れるメニュー」づくりや「徳島の食ブランド」の定着に向けたイベント実施に取り組みます。

◎集客力の高いイベントの展開

平成26年春には3日間で7万人もの来場があったアニメを核としたイベント「マチ★アソビ」や、参加者が1万人を超える「とくしまマラソン」など、「徳島ならではの」魅力あるイベントについて、内容や受入態勢の充実を図るとともに、観光施設の周遊にもつながる集客力の高いイベントを展開します。



【とくしまマラソン】



【マチ★アソビ】



【空港アニメジャック】

◎阿波おどりの通年活用

夏の「阿波おどり」に加え、春、秋の「阿波おどり」を充実させるとともに、毎日踊れる「阿波おどり会館」や練習風景もPRして、年間を通じた「阿波おどり」のフル活用に取り組みます。



【阿波おどり会館】

◎観光圏の活用

中国四国地域で唯一認定されている「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」において、民間事業者等が連携・協働した広域的な事業を支援し、滞在型観光の促進に取り組みます。



【落合集落】

◎体験型教育旅行の推進

平成25年3月に中国四国地域では初となる「第9回全国ほんもの体験フォーラム」を開催し、全国の体験型観光の実践者や教育・行政関係者の注目が本県に集まり、体験型教育旅行の受入数も増加しています。この機会を活かし、県下各圏域での受入体制を整備するとともに、更なる魅力発信により、体験型観光のブランド化を図り、先進地域としてのステップアップに取り組みます。



【ウミガメふれあい体験】 【ラフティング】

(2) 効果的な情報発信

多くの観光地の中から、徳島を旅行先に選んでもらえるよう旅行雑誌やサイトに加え、SNSなどを活用した旅行愛好者に「直接届く」魅力発信を最重点に据えるとともに、県外での観光プロモーションは、重点発地を中心に実施します。



【キャンペーン ホームページ】

◎旅行者に「直接届く」効果的な魅力発信

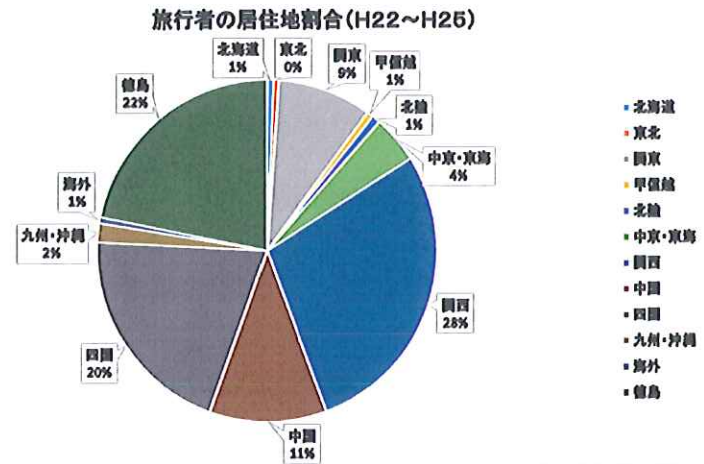
「旅行に行きたい」と考えている方が、「徳島に行きたい」と思ってもらえるよう、旅行雑誌や旅行サイト、旅行番組など、メディアを活用して、イベントの開催など徳島の旬の情報を旅行愛好者に「直接届く」形で情報発信します。

◎重点発地でのプロモーション

大都市圏であり、マスメディアも多く存在する「関西圏」、「首都圏」、「中京圏」を重点発地と位置づけ、徳島の魅力をPRする観光プロモーションを実施します。



【観光プロモーション】



「観光地点パラメータ調査」

(3) 旅行商品の造成促進

観光商談会の機会を増やし、旅行会社に徳島の魅力を直接PRするとともに、着地型旅行商品を造成し、旅行会社に対して、パンフレットに使ってもらえる観光素材の提供やモデルコースの作成、ファムツアーの実施等により旅行商品の造成を強力に推進します。

◎商談会、ファムツアーの実施

県のみならず、県観光協会や四国ツーリズム創造機構、観光関係事業者とも連携して、観光商談会において具体的な企画旅行のプランを提示するほか、徳島の魅力を体感してもらうため、旅行会社を対象としたファムツアーを実施し、徳島への旅行商品の造成を促進します。

◎発地の旅行会社への強力的な営業

魅力ある徳島旅行の企画を旅行の出発地の旅行会社へ直接売り込むことにより、本県が旅行プランに入っている旅行商品の販売を促進します。

◎着地型旅行商品の造成促進

旅行者ニーズの多様化に対応し、地元ならではの魅力ある観光、体験、食などを組み合わせた着地型旅行商品の造成を促進し、都市部の旅行会社にも提案します。また、着地型観光に意欲を持つ地域の観光関係団体や事業者等へ地域限定旅行業への登録を促進し、着地型旅行商品の開発・普及につなげます。

【施策展開】

- ・大鳴門橋開通30周年など、トピックを活かした誘客イベントの実施
- ・「おどる宝島!とくしま」キャンペーンの展開
- ・「マチ★アソビ」、「とくしまマラソン」の開催支援
- ・年間を通した阿波おどりの活用
- ・受入態勢の整備や積極的なPRによる体験型教育旅行の推進
- ・重点発地（関西圏、首都圏、中京圏）での観光プロモーションの実施
- ・メディアへの積極的な情報提供
- ・トップセールス等による旅行会社への徳島の魅力のPR

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・延べ宿泊者数	226 万人	280 万人
・延べ観光入込客数	1,964 万人	2,300 万人
・「おどる宝島!パスポート」発行数(累計)	20,000 冊	200,000 冊
・「マチ★アソビ」年間参加者数	113 千人	160 千人
・「とくしまマラソン」2万人大会の開催	1 万人大会	2 万人大会
・体験型教育旅行における協議会受入泊数	5,646泊	7,000泊

2 ビジネス目的客の取り込み

企業・産業活動や研究・学会活動等と関連するコンベンションは、多くの集客交流が見込まれ、宿泊、飲食、物産、交通など地域経済への効果のほか、学会開催による研究開発支援などの波及効果も期待できることから、学会、大会、競技大会など「コンベンション誘致の促進」につながる施策に取り組みます。

◎大会誘致の促進

平成25年度に設立した「とくしまコンベンション誘致推進協議会」を核として、コンベンション情報の共有化を図り、官民一体となった誘致活動を展開するとともに、コンベンション主催者に「徳島で開催したい」と思ってもらえるような、効果の高い助成メニューを構築します。

◎1,000人規模大会の重点的な誘致

本県の宿泊規模に見合った1,000人規模の大会が多く開催されるよう、重点的に誘致を推進します。

◎プラス一泊の観光周遊を促進

コンベンションで来県された方に、プラス一泊して徳島を楽しんでもらえるよう、アフターコンベンションとして、視察観光や産業観光を提案した「とくしまコンベンション支援ガイド」や「観光モデルプラン」、「グルメ・土産物ガイド」を活用した観光周遊の促進に取り組みます。

【施策展開】

- ・コンベンション情報の収集
- ・コンベンションの主催者に対する開催経費や郷土芸能の招へい費用、会場使用料助成など、効果の高い支援を実施
- ・商談会、個別営業活動により、コンベンションの助成内容を積極的に発信

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・コンベンション参加者数 (中四国規模以上)	96千人	130千人

3 「訪日外国人2000万人時代」に向けた取組み

国においては、平成25年6月に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を策定し、東南アジア諸国のビザ要件緩和等、観光立国の実現に向け取り組んできた結果、平成25年の訪日外国人旅行者数年間1,000万人を史上初めて達成し、オリンピック・パラリンピック東京大会が開催される2020年には2,000万人の高みを目指すとしています。

本県においては、最近の円安傾向やLCC（格安航空会社）などの新規就航等による航空座席供給量の増加等の訪日観光に対する追い風を最大限に活かし、これまでの東アジアや東南アジアに向けた団体旅行中心の誘客に加え、個人旅行の誘客、欧米でも人気のある遍路やアニメなど、「求められる観光資源」を「求める市場」に情報発信し、外国人観光誘客を推進します。

◎国、地域の特性に合わせた誘客の推進

訪日観光への関心分野や旅行形態、目的は、国や地域により異なるため、様々な観光資源やコンテンツをそれぞれの特性に合わせて効果的な観光誘客に取り組みます。



【海外での旅行商談会】

◎効果的な情報発信

本県の知名度向上に繋げるため、多言語の観光パンフレットやホームページ、メールマガジン、フェイスブック等を活用して情報発信を行うとともに、海外メディアを活用するなど、効果的な情報発信を行います。

◎MICEの誘致

多くの集客効果が見込まれるMICEの誘致を推進します。

- ・企業等の会議（Meeting）
- ・企業等の報奨・研修旅行（Incentive(Travel)）
- ・国際会議（Convention）
- ・文化・スポーツイベント、展示会・見本市（Exhibition/Event）

◎ニューツーリズムの推進

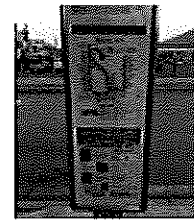
教育旅行をはじめ、とくしまマラソン、医療観光や遍路、アニメなど、徳島ならではの観光資源を活かして、ニューツーリズムの推進に取り組めます。



【教育旅行】

◎受入環境の整備

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向け、多言語表記の推進や、通訳案内サービスの向上、ハラル対応など、本県を訪れる外国人旅行者の利便性向上のため、受入環境の整備を推進します。



【多言語表記】

◎海外との相互交流

外国との間における姉妹都市交流や経済交流等の海外との相互交流の促進等に必要な施策に取り組みます。

【施策展開】

- ・ 訪日リピーターが多い香港、台湾市場に対しては、送客実績のある旅行会社との連携を深め、本県の豊かな自然や体験メニューなど旅行ニーズの高い観光素材をアピールし、団体旅行客をターゲットにした旅行商品の造成を図る。
- ・ 韓国市場に対しては、健康志向の高い熟年層や教育関係者をメインターゲットに、ゴルフやトレッキングなど週末感覚で楽しめる旅行商品の開発や阿波おどりや藍染めなど本県の伝統文化に触れる観光素材を活用し、誘客を図る。
- ・ 東アジア（中国、香港、台湾、韓国）はもとより、東南アジア（シンガポール、タイ等）も重点エリアとし、今後増加が見込めるイスラム圏も含め、各国の訪日観光ニーズを踏まえ、団体旅行客、個人旅行客の誘客を図る。
- ・ 関西広域連合や四国ツーリズム創造機構の活動を通じた海外における観光プロモーション活動の展開
- ・ 外国クルーズ客船の寄港誘致
- ・ 県の公式ホームページやSNS、メールマガジン、観光情報サイト等において、多言語による外国人向けの情報発信を実施
- ・ 観光事業者、団体等が進めるハラル対応の取組みをホームページで紹介し、県内でのハラル受入環境整備を促進
- ・ お遍路、「マチ★アソビ」、「とくしまマラソン」などによる徳島への誘客促進及び広報プロモーション活動の展開
- ・ 観光案内板等の外国語表記を促進し、外国人観光客の利便性の向上を図る。
- ・ 本県と友好交流関係にある地域との間で、経済、文化、教育、スポーツ等、幅広い分野において交流を実施

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・ 外国人延べ宿泊者数	32 千人	80 千人
・ 外国人入込客数	38 千人	100 千人

VI 7つの基本方針

1 将来の観光を担う人材の育成

徳島県には、長年にわたるお接待文化により培われた「訪れる人を迎えるおもてなしの心」があります。こうした強みにさらに輝きを増し、「徳島県が目指すべき将来像」の実現に向けた県民総ぐるみのおもてなしの向上のため、地域の観光リーダーをはじめ徳島県の将来の観光を担う人材の育成を推進します。

(1) 観光に対する理解と関心の醸成

幼い頃から、郷土の歴史や文化、自然など観光資源に親しみ、ふれあうことを通じて、郷土に対する理解や関心を深めるなど、将来の観光を担う人材の確保ができるよう必要な施策に取り組みます。

○小中高等学校での学習の推進

小中高等学校において、郷土の自然や歴史についての学習や藍染め体験など伝統的文化にふれることなどにより、郷土に対する理解や関心を深めるとともに、郷土を愛する心や誇りに思う心を育成します。

【施策展開】

- ・体験学習や宿泊訓練などを通じた郷土の伝統・文化や自然についての学習を推進
- ・授業で地域の歴史や文化などの地域教材を活用

○郷土を再発見できる講座の開催

徳島が誇るべき郷土であることを学び、理解や関心を深めるため、徳島県立総合大学校等において、徳島の歴史・文化・自然等に関連した講座等を実施します。

【施策展開】

- ・「ふるさと徳島」を再発見するための講座や地域の活性化、特色ある地域づくりなどの取組みにつながる講座を開催

○郷土について学びたい方への学習情報の提供

郷土について学ぶ方のために、徳島県生涯学習情報システムや徳島県立総合高等学校ホームページにより、指導者等に関する情報を提供します。

【施策展開】

- ・ 県、市町村、県内生涯学習関連施設等が連携し、徳島県生涯学習情報システムや徳島県立総合高等学校ホームページを活用した生涯学習情報の提供

○観光振興に関する情報の周知

観光に関する施策や取組状況、イベント情報などについて、広く県民に周知を図ることにより、観光振興に対する関心の醸成を図ります。

【施策展開】

- ・ 広報紙、広報番組、インターネット、SNS、メールマガジンなどを活用した旬なイベント情報や先進的な取組事例の積極的提供

(2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

観光客に「来て良かった」と満足してもらい、「また来たい」とリピーターにつながるよう、県民が、歴史と伝統で培われた「お接待文化」によって育んできた思いやりの心や「おもてなしの心」を持って、観光客に接するとともに、旅館、ホテルをはじめとする全ての観光施設での心のこもった「おもてなし」の接遇が行われるよう、関係団体との協力により、学習機会の提供など必要な施策に取り組みます。

○主要観光地等でのガイドによる対応

観光客にとって観光ボランティアガイドは大きな魅力となり得ることから、その育成や資質向上に取り組むとともに、活動状況などの積極的な情報提供を行います。

【施策展開】

- ・ ボランティアガイドの育成やネットワークを構築
- ・ 観光パンフレット、インターネットなどでボランティアガイドに関する情報を発信

○観光講座の充実

徳島県立総合大学校等において「観光講座」を開設し、観光客との交流を通じて相互に得られる喜びについて学習するなど、「おもてなしの心」を拡げていく取組みを推進します。

【施策展開】

- ・観光従事者をはじめ観光に関わる方々を対象とした「おもてなし」に関する講習会等を開催

(3) 観光の振興に寄与する人材の育成

地域の観光リーダーを始めとする観光の振興に寄与する人材の育成を図るため、観光に関する事業に従事する者の知識及び能力の向上、地域の固有の文化、歴史等に関する知識の普及の促進等の必要な施策に取り組みます。

また、観光の振興に寄与する人材を活用し、観光客の満足度の向上につながるよう必要な施策に取り組みます。

○リーダーの育成

将来の観光業界を担うリーダーを育成するため、プランニングやマネジメント能力などの向上に取り組みます。

【施策展開】

- ・「着地型旅行商品」を造成する人材の育成研修の実施
- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷」をはじめ、県内各圏域での体験型観光におけるコーディネーターを積極的に養成

○観光従事者の育成

県全体の観光サービスの底上げを図るため、観光従事者向けの研修について取り組みます。

【施策展開】

- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷」をはじめ、県内各圏域での体験型観光におけるコーディネーターを積極的に養成（再掲）
- ・市町村観光担当者などへの研修会等を開催

○外国人観光客に対応できる人材の育成

増加する外国人観光客のニーズに対応するため、外国語による接客、観光資源の紹介、道案内等ができる人材の育成に取り組みます。

【施策展開】

- ・観光施設、宿泊施設の経営者や従業員等を対象に情報提供や研修会を開催
- ・外国人に対応する人材育成のため、ボランティアを対象とした語学研修の実施
- ・本県に眠る語学能力を有する人材の「発掘・育成」と必要な組織への「派遣・支援」
- ・「とくしま国際戦略センター」において、外国人観光客への情報提供等を実施

○観光分野でのICT活用人材の育成

情報通信技術の進展に伴う観光のICT化、スマートフォンユーザーへの対応等を踏まえ、web、SNS等を活用した情報発信に対応できるICT活用人材の育成支援に取り組みます。

【施策展開】

- ・県内の魅力ある情報を、写真や動画などを使いインターネット上に発信することのできる人材の育成

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・「とくしま観光講座」受講者数(累計)	513人	900人
・体験型観光のインストラクター研修の実施数 (累計)＜再掲＞	18回	28回

2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

徳島県が誇る観光資源により一層磨きをかけるとともに、新たな観光資源を掘り起こすことにより、観光地としての魅力の向上に努めるなど、観光客に「行ってみたい」、「来て良かった」、「また来たい」と思ってもらえる魅力あふれる観光地づくりを推進します。

(1) 住んでよし、訪れてよしの観光地づくり

何度も訪れたいくなる「住んでよし、訪れてよし」の本物の魅力ある観光地の形成を図るため、観光による交流の拡大を通じて、県民が地域の魅力をよりよく自覚し、誇りと愛着を持つとともに、訪れる方にとってもその魅力をよりよく感じていただけるよう必要な施策に取り組めます。

○観光客との交流が生まれる観光地づくり

農林水産業体験や郷土料理などが味わえる農林漁家民宿などを活用した観光客と地元の人々との交流を促進し、将来の定住につながる仕組み作りを推進します。

【施策展開】

- ・ 地域資源等を活用した農山漁村と都市との交流を推進
- ・ 県と市町村が連携し、移住者の受入体制の整備を図るとともに、地域の情報や魅力を発信

○地域が一体となって取り組む観光地づくり

地域が一体となって観光振興へ取り組み、地域の魅力を再発見し、誇りと愛着を持てるような取組みを支援します。

【施策展開】

- ・ 世界的な景勝を誇る「鳴門の渦潮」について、兵庫県と連携して世界遺産の登録を目指した取組みを推進
- ・ 広く県民から地域の魅力に関する情報収集に努め、インターネット、メディア等で情報発信
- ・ 観光事業者と市町村などが合同でエージェント訪問や観光キャンペーン等を実施
- ・ 着地型旅行商品について官民一体となった造成の取組みを支援

- ・「南阿波よくばり体験」、「そのの郷」をはじめとする体験型観光などの地域が一体となった取組みを支援
- ・自然・歴史・文化・伝統芸能・食・温泉などの様々な地域資源を掘り起こし、地域の魅力を再発見する観光地域づくりを推進

○ユニバーサルツーリズムの推進

ユニバーサルデザインの考え方に基づいて、障がい者や子どもから高齢者まですべての人が暮らしやすいまちづくりを推進することにより、観光客にとっても快適な観光地づくりに取り組みます。

【施策展開】

- ・観光、福祉等の関係団体と連携・協力して、全ての人々が安全・安心に旅行を楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」を推進
- ・ユニバーサルデザインの考えに基づく宿泊施設、観光施設などの情報を分かりやすく発信
- ・観光客が安心して訪問できるような案内標識の整備推進
- ・観光施設での接遇の向上

(2) 観光資源の育成

徳島県は、「鳴門の渦潮」、「県南の海」、「剣山」、「吉野川」、「大歩危峡」など心癒される豊かな自然、世界に誇る伝統芸能「阿波おどり」、「阿波藍」、「阿波人形浄瑠璃」、「ベートーヴェン第九 アジア初演」などの「あわ文化」、「うだつの町並み」、「祖谷のかずら橋」さらには徳島県から始まる「四国八十八箇所巡り」といった歴史的・文化的遺産に加え、「なると金時」、「すだち」、「阿波尾鶏」、「鳴門わかめ」などの豊富で新鮮な食材に恵まれるなど、魅力あふれる観光資源を有する「宝島」です。

これら観光資源を磨き上げ、地域の特性を生かした魅力ある観光地の形成を図るとともに、新たな観光資源の創造に必要な施策に取り組みます。

○お遍路と県内各地での観光の組み合わせ

お遍路と県内各地の観光資源等を組み合わせることにより、総合的な魅力の向上に取り組みます。また、女子旅など気軽に楽しめる観光として、パワースポット、グルメなどと合わせ、旅行商品としてPRします。

【施策展開】

- ・「四国八十八箇所霊場と遍路道」について、四国4県が連携して世界遺産登録を目指した取組みを推進
- ・各地の自然や、四国八十八箇所をはじめとする歴史的・文化的遺産などに親しみながら、歩いて四国を一周できる「四国のみち」の整備を推進
- ・女性や若年層をターゲットとした、県内観光と遍路体験を組み合わせたモデルプランを提案し、新たな層への「遍路」の魅力を発信
- ・観光客が気軽に遍路体験が出来る旅行商品の造成を支援

○伝統芸能の振興、活用

「阿波おどり」や「阿波人形浄瑠璃」などの伝統芸能の普及、活用を図り、観光客の誘客に努めます。

【施策展開】

- ・夏の「阿波おどり」はもとより、春の「はな・はる・フェスタ」、秋の「おどる宝島！とくしま博覧会」における阿波おどりを充実するとともに、「阿波おどり会館」の活用、有名連の練習風景もPRし、年間を通して、「阿波おどり」をフル活用
- ・本県で開催した国民文化祭の4大モチーフとして位置づけた、「阿波おどり」、「阿波人形浄瑠璃」、「阿波藍」、「ベートーヴェンの第九」などの個性豊かな文化資源に磨きをかけて、全国に発信
- ・県外での観光・物産展などのイベントの場で、阿波おどりや阿波人形浄瑠璃などをPR

○伝統工芸の振興、活用

観光客が直接触れたり、体験が出来るようにするなど工夫を重ね、より一層観光客に普及、浸透するよう取り組みます。

【施策展開】

- ・国指定の伝統的工芸品である阿波和紙、阿波正藍しじら織、大谷焼について、工芸品展への参加を通じた伝統的工芸品産業の振興
- ・伝統工芸品に触れる機会を創出するため、各種団体の観光・物産展への参加を支援

- ・郷土で育み受け継がれてきた伝統的な特産品を、「徳島県伝統的特産品」として指定し、当該産業の事業者等の製造意欲の高揚とその伝統的な地場産品の育成振興
- ・「藍染め・しじら織り製品」をクールビズという視点で全国的認知度を高め、本県の魅力向上と藍染め・しじら織り地場産業の振興

○宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

本県が誇る豊富な食材を、宿泊施設、飲食店等で観光客に提供することにより、観光地としての魅力向上を図り、誘客に取り組みます。

【施策展開】

- ・地元ならではの食と観光施設を組み合わせた情報発信

○観光資源の掘り起こし

自然、歴史的文化遺産、医療、アニメ文化を活用した観光など先駆的視点を持って、新たな観光資源の掘り起こしに取り組みます。

【施策展開】

- ・日常の中にある何気ない風景や地元の人だけが知っている絶景ポイントなど隠れた観光資源について、webサイト等で広く県民等から情報収集し、魅力を発信
- ・糖尿病の診断と本県が持つ豊富な観光資源とを組み合わせた旅行商品を企画
- ・若年層に対して今ある観光資源について、アニメを活用した新たな切り口で情報発信
- ・「なると金時」などの特産品を使用した地元で愛されてきた「阿波 SWEETS」など新たな「食」の魅力を発信
- ・徳島県文化の森総合公園各館（図書館、博物館、近代美術館、文書館、21世紀館、鳥居龍蔵記念博物館）において、年間を通じ、企画展等を開催
- ・県内において、LEDを効果的に取り入れた光の名所と呼べる場所やモニュメント等を「光の八十八ヶ所」として認定し、広く情報発信
- ・体験型観光や食体験などの観光資源の掘り起こし、磨き上げ
- ・神山の「サテライトオフィス」や上勝町の「いろどり」など先進的な取組みへの視察と観光を組み合わせた旅行プランの作成

(3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

観光地としての総合的な魅力向上を図るため、郷土料理や物産などの徳島ならではの魅力的で安全・安心な県産品の創出や販売・流通事業者への販路拡大の支援等に必要な施策に取り組みます。

○徳島ならではの食の提供

新鮮でおいしい徳島県産の食材を活かした料理など、徳島ならではの食を提供することにより、本県の魅力向上を図ります。

【施策展開】

- ・「徳島県酒造組合」等、関係機関と連携した地酒の振興
- ・阿波尾鶏指定料理店や徳島産はも指定料理店等において、徳島ならではの食を提供

○県産品のブランド化推進

安全安心で独自の魅力を持った、徳島を代表とする優れた県産品を「とくしま特選ブランド」として選定し、県産品のブランド化推進を図ります。

また、メディア等を活用したイメージ戦略を推進し、県産品の認知度向上に取り組めます。

【施策展開】

- ・世界に通用する魅力的な「とくしま特選ブランド」の発掘
- ・「とくしま特選ブランド」伝統工芸品部門の新設
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた「とくしま特選ブランド」の新ロゴマークの策定
- ・すだちくんやアニメ等のキャラクターを活用したグッズや県産品の開発
- ・県産品を取り上げるグルメ紀行や旅番組などのロケ支援・誘致
- ・FacebookなどのSNSを使った情報発信

○県産品の販路拡大・販売促進

消費者や販売事業者のニーズを的確に捉え、産直市等での販売促進により地産地消を推進するとともに、商談会・フェアを更に強力に実施することにより地産外商を進めます。

【施策展開】

- ・県内で県産品に触れる機会を創出し、地産知消（知って消費する）を推進
- ・インターネット物産展を実施し、ICTによる販売体制を強化
- ・県外の商談会やフェアを積極的に開催・参加するなど、県外で県産品に触れる機会を創出
- ・外国人観光客への県産品PRを行い、世界に羽ばたく「とくしま県産品」を目指すとともに、国内事業者に対し、海外における積極的なビジネスマッチングの場を提供

○産直市の活用

新鮮で、地域の特色ある食材を購入できる場として、より集客力を高める取組みを推進します。

【施策展開】

- ・「産直市巡り」などを旅行会社への企画提案することによる商品開発の推進

(4) 地域の観光の振興に関する総合力の向上

徳島県内の各地域における観光地や様々な分野で活躍している方々の相互連携を図り、観光に関する情報の集約や提供等を行うなど、各地域の観光の振興に関する総合力の向上のために必要な施策に取り組めます。

また、徳島県内の観光地の一体感の醸成を図るため、観光地における観光客に対する情報の表示等について統一された規格、色彩、デザイン等の活用を促進するなど必要な施策に取り組めます。

○観光地の連携による周遊型観光の推進

観光客の視点に立ち、地域の観光地の連携を図りながら、宿泊地を拠点としてより多くの観光地を巡り、様々な魅力を堪能できるような取組みを推進します。

【施策展開】

- ・県内を広域に結ぶ周遊ルートを開発し、観光パンフレットやインターネットを通じてPR
- ・観光タクシーを積極的にPR
- ・「おどる宝島！パスポート」を活用した周遊型観光の推進

○観光地における表示の統一

観光地における観光客に対する情報の表示等について統一された規格、色彩、デザイン等の活用により、一体感の醸成に取り組みます。

【施策展開】

- ・観光客にとって見やすく、わかりやすい観光情報を提供するため、観光案内標識の規格、デザイン等の統一を推進

○観光に関する情報の共有化

様々な分野で活躍する方々が持つ情報の共有化を進めるとともに、相互連携を図り、観光による地域の一体感の醸成に取り組みます。

【施策展開】

- ・市町村、観光事業者、観光関係団体と適時適切に情報交換を行い、情報の共有化を図る。
- ・「おどる宝島！キャンペーンサイト」を活用したお得なイベント等の情報発信
- ・市町村が直接入力ができるように改善した県の観光情報サイト「阿波ナビ」を活用したイベント情報などの共有化

○観光従事者向け研修の実施（再掲）

県全体の観光サービスの底上げを図るため、観光従事者向けの研修について取り組みます。

(5) 自然環境及び良好な景観の保全

徳島県の誇りであり、貴重な財産である観光地における自然環境及び良好な景観の保全並びに環境美化の促進を図るため、自然体験活動や環境保全活動等を通じて県民や観光客の自然環境及び良好な景観の保全並びに環境美化に対する理解の増進を図るなど必要な施策に取り組みます。

○自然体験活動等を通じた環境学習の推進

県民や観光客の自然環境及び良好な景観の保全並びに環境美化に対する理解の増進を図るため、自然体験活動等を通じた環境学習教育に取り組みます。

【施策展開】

- ・学校における環境学習活動を地域の企業等が支える「環境首都あどぷと・エコスクール」を活用するなど、地域や事業者、学校などにおける「とくしま環境学びプラン」に基づく環境教育・学習の実践を総合的・体系的に推進
- ・県立佐那河内いきものふれあいの里において、徳島の四季折々の豊かな自然にふれあえる自然観察会等を実施
- ・牟岐少年自然の家において、小中学生に対する自然体験活動メニューの実施や一般の方の冬期利用の拡大

○環境と景観の美化

観光客に快適な印象を与えるよう、各地域において、環境と景観の美化を図る取組みを推進します。

【施策展開】

- ・「ゴミゼロの日」キャンペーンやアドプトプログラムなど、環境と景観の美化に向けた普及啓発
- ・阿波とくしま観光の日の取組みとして、観光地の美化を推進
- ・住民と行政が協働で道路景観の向上を図り、地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取組みを推進
- ・地域住民と協働し、川と海のごみの除去等を進め、「美しい徳島の川づくり、海づくり」を推進
- ・「とくしまマラソン」のコースとなっている吉野川において、ボランティア団体等と連携し、河川堤防等を桜など四季折々の花々で彩る。

(6) 観光客の利便性の向上

徳島県での快適な観光を行っていただくため、観光客の多様なニーズに対応できるよう豊富なメニューをそろえた着地型観光の推進や、公共交通機関をはじめとする交通アクセスの向上、駐車場の確保、道の駅の効果的活用など、環境に配慮しながら徳島県を訪れる観光客の利便性の向上に必要な施策に取り組みます。

○着地型観光での利便性の向上

地元に着地した着地型観光の商品づくりを進めることにより、観光客等の多様なニーズに応え、利便性の向上に取り組みます。

【施策展開】

- ・多様化したニーズに応えるため、地域資源を活用した新たな着地型観光の商品化を推進
- ・着地型旅行商品について官民一体となった造成の取り組みを支援（再掲）
- ・市町村等が行う観光イベント事業を支援し、個性と魅力にあふれた地域づくりを推進

○観光客による買い物等の利便性向上

観光施設や物産販売施設等において、観光客が現金を持ち歩かなくても観光や買い物などが楽しめるためのクレジットカード等利用可能店舗や、外国人向けの消費税免税店の拡大促進により、観光客の利便性の向上に取り組みます。

【施策展開】

- ・観光施設や物産販売施設等におけるクレジットカード等取扱店の拡大を進めるとともに、外国人向けの消費税免税店拡大に向けた情報提供などの支援を行う。

○一次交通の向上

県内での快適な観光を図るため、交通アクセスの向上に取り組みます。

【施策展開】

- ・航空機利用に係る広報及び旅行企画の促進等による航空路線の維持・拡充を図る。
- ・個人旅行が主流となっている観光ニーズに対応するため、鉄道や路線バス、タクシー等を活用した円滑な移動手段の周知による観光客の利便性の向上を図る。
- ・四国縦貫・横断自動車道や阿南安芸自動車道など、四国を循環する高速交通ネットワークである「四国8の字ネットワーク」の整備、さらには、主要幹線道路の整備を推進
- ・本県が持つ豊かな自然を活かした剣山をはじめとする自然公園へのアクセスとなる国道、県道の整備を推進

○二次交通の整備

飛行機、鉄道などの一次交通機関と観光地を結ぶ二次交通の円滑な接続の向上に取り組めます。

【施策展開】

- ・地域住民の生活交通手段である広域的・幹線的バス路線の確保に向けた支援
- ・観光施設等を定額料金で周遊できる二次交通機関としての観光タクシーの普及
- ・観光地までのシャトルバスや乗り合いタクシーの運行、レンタル自転車の整備など旅行者の利便性を高める取組みを実施

○道の駅での的確な情報提供

道の駅において、観光客等が求める情報を的確にかつ容易に入手できるように取り組めます。

【施策展開】

- ・市町村と連携しながら、産直市が楽しめるなど、地域の交流拠点や情報提供拠点となる「道の駅」を整備
- ・各種観光パンフレットを設置し、必要な情報を提供

○駐車場の確保

観光客が集中する時期には臨時駐車場を設置するなど、観光客の利便性の向上に取り組めます。

【施策展開】

- ・阿波おどりの開催に合わせ、県外ナンバーの車両に対して県庁駐車場を開放
- ・鳴門公園への観光客が集中するゴールデンウィークやお盆期間中において、無料駐車場の設置や無料シャトルバスを運行するなど、地元の市、関係事業者、指定管理者と連携した渋滞の緩和対策を実施

(7) 安全及び安心の確保

観光地において事故、災害等が発生した場合における必要な情報の提供等、徳島県を訪れる観光客が安全に安心して観光ができるようにするために必要な施策に取り組めます。

○事故、災害への備えに関する情報発信

観光客等が安心して本県を訪れられるよう、事故、災害への備えに関する本県の情報発信に取り組めます。

【施策展開】

- ・観光客等が、災害時における宿泊施設等の提供をはじめとする危機管理情報を適切に受け取ることができるよう、県、市町村の観光施設や民間の宿泊施設等へ情報提供を行う。

○事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

事故、災害が発生した際に、観光客等への適時・的確な対応を支援する取り組みを推進します。

【施策展開】

- ・インターネット上で防災情報を迅速・確実に取得でき、県からの防災ニュースを広く県民に適時発信している防災情報ポータルサイト「安心とくしま」を活用し、観光客に対して、観光施設や宿泊施設等を通じて、もしくは、観光客自ら「安心とくしま」から防災情報を得られるよう情報の周知に努める。

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・「おどる宝島！パスポート」発行数(累計) <再掲>	20,000冊	200,000冊

3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

観光客の多様なニーズに応える旅行プランが提供できるよう、新たな観光旅行の開拓に努めるとともに、徳島県の魅力をより一層実感していただけるよう、本県ならではの魅力あふれる観光資源を活用した体験型観光などに積極的に取り組むことにより、滞在型観光を推進します。

(1) 新たな観光旅行の開拓

新たな観光旅行の開拓を図るため、自然体験活動、農林水産業に関する体験活動等を目的とする観光旅行、心身の健康の保持増進のための観光旅行、自然環境や歴史文化を体験し学ぶ観光旅行、食文化への理解を深めるための観光旅行など、将来の定住につながる滞在型観光旅行その他の多様な観光旅行の形態の普及等に必要な施策に取り組みます。

○グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

農山漁村地域において、農林漁業体験や田舎での宿泊などを通じて、自然、文化、地域の人々との交流を深めるグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進に取り組みます。

【施策展開】

- ・インターネット等を通じて農林漁業体験施設の情報や農山漁村の魅力を紹介し、徳島のグリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムを積極的にPR
- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷」をはじめとする団体による体験型観光の取り組みへ支援を行うほか、体験型観光のパンフレットを活用した情報発信を行う。
- ・体験型観光の先進地としてさらなる飛躍を図るため、県下全域での受入態勢を構築

○エコツーリズムの推進

自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく、それらを体験し学ぶエコツーリズムの推進に取り組みます。

【施策展開】

- ・本県の優れた自然景観を有する自然公園の整備

○医療観光の推進

先進技術の提供と豊富な観光資源等を組み合わせたメディカルツーリズムの推進に取り組みます。

【施策展開】

- ・糖尿病の診断と本県が持つ豊富な観光資源とを組み合わせた旅行商品を企画（再掲）

○産業（視察）観光の推進

本県の特色ある産業について学び、体験することを通じて地域の人々との交流を深める産業観光の推進に取り組みます。

【施策展開】

- ・本県が持つ豊富な観光資源と産業観光を組み合わせた新たな旅行商品の造成を支援
- ・長年の伝統を受け継ぐ「酒蔵」や「醤油製造所」など本県の持つ新たな産業観光資源を発掘し、情報を発信
- ・神山の「サテライトオフィス」や上勝町の「いろどり」など先進的な取組みへの視察と観光を組み合わせた旅行プランの作成（再掲）

○食を活用した観光の推進

徳島でしか味わえない料理や地域の特色ある食文化を活用し、観光客の来訪につながる取組みを推進します。

【施策展開】

- ・「わざわざ徳島に行って食べたい」と思わせる徳島を代表する食の名物の創作、活用
- ・食材の健康増進機能に着目し、観光資源として活用
- ・徳島ラーメンに代表される「イケ麺」など徳島特有の食文化を情報発信
- ・「徳島の活鱧料理 味わいキャンペーン」の強化や「日本三大はも祭り！」でのPR等を実施
- ・「徳島県酒造組合」等、関係機関と連携し、地酒を活用したまち歩き観光などの周遊型観光について、地元の取組みを情報発信
- ・「なると金時」などの特産品を使用した地元で愛されてきた「阿波 SWEETS」など新たな「食」の魅力を発信（再掲）

○体験型教育旅行の誘致

本県の魅力を身近に感じていただき、将来のリピーターの創出につなげるため、体験型教育旅行の誘致を推進します。

【施策展開】

- ・ 藍の館、阿波十郎兵衛屋敷等複数の体験型観光施設を組み合わせることにより新たな総合体験メニューとして構築し、体験型教育旅行を誘致
- ・ 「南阿波よくばり体験」、「そらの郷」をはじめとする体験型観光の取組みへの様々な支援のほか、本県への教育旅行の誘致拡大のため、教育関係者や旅行エージェント担当者の招へい等を行うなど、積極的かつ効果的なPRを実施
- ・ 本県への訪日教育旅行促進に向け、関係機関の連携による受入体制の充実を図るとともに、積極的な誘致活動を実施
- ・ オートキャンプ場などにおいて、緑豊かな海浜の景観、公園施設を活かしたバーベキュー体験等を通じて、キャンプ体験型旅行を誘致

(2) 観光客の滞在促進

観光客の滞在促進につながる観光地の形成を図るため、徳島県内の各地域において、自然や歴史文化に加え、地域の日常的な生活文化といったそれぞれの観光資源の特色を生かしたまち歩き観光などのテーマ性、ストーリー性を持たせた魅力あふれる観光プランづくり及び発掘に必要な施策に取り組みます。

○観光資源の特色を生かした観光プランづくり

観光ボランティアガイドによるまち歩き観光、「癒し」などのテーマ性、ストーリー性を持った地域の魅力を生かした観光プランづくりに取り組みます。

【施策展開】

- ・ ボランティアガイドによるまち歩き観光の普及、促進
- ・ 自然を満喫できるアウトドアイベント等の開催を通じた情報発信
- ・ 歴史文化、暮らしに根ざした地域資源を活かした旅行商品を造成
- ・ 激化する地域間競争の中、本県に着地する観光客だけでなく、近隣県を周遊しようとする観光客を積極的に呼び込み、徳島で滞在し、宿泊していただくための「きて・みて・なっとく！」できる魅力の造成、発信を実施
- ・ コンベンション主催者への観光案内において、プラス1泊につながるような観光モデルコースのPR

- ・大手旅行エージェントが実施するプロジェクトやキャンペーン事業に対し積極的なサポートを実施

○徳島ならではの食材、県産品を生かした観光メニューづくり

魅力ある県産食材や県産品と観光資源を組み合わせたメニューづくりに努めるなどにより、誘客に取り組みます。

【施策展開】

- ・旅行エージェント等とタイアップし、「食」と「観光」を一体化した売り込み
- ・瀬戸内ブランド認定商品による県産品のPR
- ・「わざわざ徳島に行って食べたい」と思わせる徳島を代表する食の名物の創作、活用（再掲）
- ・地元食材を提供する産直市と観光施設等を組み合わせたマップによる発信
- ・「なると金時」などの特産品を使用した地元で愛されてきた「阿波 SWEETS」など新たな「食」の魅力を発信（再掲）

○観光地の連携による周遊型観光の推進（再掲）

観光客の視点に立ち、地域の観光地の連携を図りながら、宿泊地を拠点としてより多くの観光地を巡り、様々な魅力を堪能できるような取組みを推進します。

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・延べ宿泊者数<再掲>	226万人	280万人
・延べ観光入込客数<再掲>	1,964万人	2,300万人
・体験型教育旅行における協議会受入泊数	5,646泊	7,000泊
・県産品を使ったメニュー・商品開発数(累計)	107件	220件

4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

多くの観光客に選択される徳島を目指して、自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれた本県の魅力を発信し、「阿波とくしま」の知名度向上を図るとともに、マスメディアや県人会のネットワーク等を活用した広告宣伝の実施など広く国内外に向けた情報発信を推進します。

(1) 徳島県の魅力に関する情報発信

徳島県への観光客誘致のため、県人会や県ゆかりの方々のネットワーク、インターネット、携帯サイト、観光案内所等あらゆる手段を活用し、効果的に観光に関する情報の提供等に必要な施策を講ずるとともに、県民一人一人が持つ情報発信力を高めるために必要な施策に取り組みます。

また、県産品を活用した魅力の発信を図るため、都市圏でのアンテナショップによる物産ブランドの情報発信をはじめ、県外における観光・物産展の開催に必要な施策に取り組みます。

○人的ネットワークの活用

県人会や県ゆかりの方々のネットワークを活用し、本県の魅力に関する情報発信に取り組みます。

【施策展開】

- ・全国各地に広がる県人会の人的ネットワークを活用し、観光誘客の推進や物産の販路拡大を図るとともに、全国徳島県人会連合会が委嘱する「徳島交流大使」を通じた県外各地域との交流を活性化
- ・徳島県の魅力を広く発信していただける本県出身者や本県とゆかりの深い方に「阿波とくしま観光大使」を委嘱し、徳島県の魅力を広く県外に発信していただき、認知度とイメージの向上を図る。
- ・県に関係するメールマガジンの登録者に旬の観光情報やおトクな情報を発信し、誘客を促進する。

○インターネット、携帯サイトの活用

自宅等に居ながらにして容易に様々な情報を入手できる、インターネット、携帯サイト、SNSを活用し、本県の魅力に関する情報発信に取り組みます。

【施策展開】

- ・ インターネットを活用した本県産品のPRや県内事業者の電子商取引の促進を図り、販路拡大を推進
- ・ 県産品に関するポータルサイト「おどる宝島！なっとくしま」を活用し、県産食材の販路拡大、県内飲食店の魅力発信、観光客に対する「おもてなし」の向上を図る。
- ・ 県の観光情報サイト「阿波ナビ」や「おどる宝島！とくしまキャンペーンサイト」において、新規コンテンツの作成などにより、ユーザビリティの向上を図る。
- ・ イベント情報や観光・物産の情報を掲載したメールマガジンを配信し、最新の観光情報を定期的に提供

○情報発信拠点の充実

観光案内ステーションを拡充するなど、観光情報の発信拠点の充実に取り組みます。

【施策展開】

- ・ 観光案内ステーションの拡充により、積極的に観光情報を提供
- ・ 本県の玄関となる「渦の道」や「エディ」などにおいて、県内各地の観光情報を積極的に提供
- ・ 県外事務所及びアンテナショップなどにおいて、パンフレットを設置
- ・ 県内に展開するコンビニエンスストアにおいて、パンフレットを設置
- ・ 県民や県外からの観光客に対し、県内で開催されるイベント等の情報を効果的に発信するため、道路情報板にその内容を表示
- ・ デジタルサイネージ（電子看板）を観光地等に設置し、観光客に対し周辺の店舗の情報やイベント情報を提供
- ・ 多機能携帯端末（スマートフォン）に対応した情報発信

○県民一人一人の情報発信力の向上

観光に関する情報の提供や知識の習得の機会の提供により、県民一人一人が地域の魅力を再発見して地域に誇りと愛着を持ち、本県の魅力を発信できるような取組みを推進します。

【施策展開】

- ・ 広報紙、広報番組、インターネット、メールマガジン等あらゆる手段を活用して、観光に関する情報を提供し、県民一人一人のSNS等を活用した情報発信力の向上を図る。
- ・ 県内の魅力ある情報を発信し、地域をPRしているホームページ等の顕彰
- ・ 県内の魅力ある情報を県民が持ちよって全国に向け発信するwebシステムを構築・運用
- ・ インターネットやパソコンについての講座を開催

○口コミの活用

本県を訪れた観光客等の満足度を向上することにより、本人がリピーターになっていただくのはもちろん、口コミ情報の発信により新たな集客へとつなげていけるよう取り組みます。

【施策展開】

- ・ 観光ボランティアや四国観光達人により観光地の詳細な情報を提供
- ・ 「阿波ナビ」で紹介する観光情報に対して一般の方が感想や意見を口コミ情報として掲載できるサイトを制作・公開し、実際に訪れた方のライブ感ある文章によって観光施設などの魅力を発信
- ・ 地元だからこそ知っている隠れたオススメ情報や観光名所にまつわるトピックスなどを「阿波ナビ」でレポートとして発信する「とくしま観光おすすめ隊」の増加を図る。

○大都市圏でのアンテナショップの活用

大都市圏の「コンビニ型アンテナショップ」や民間店舗を県が認定する「阿波とくしまアンテナショップ」を活用し、観光情報を効果的に発信することにより、本県の魅力をより多くの方に知っていただき誘客につなげられるよう取り組みます。

【施策展開】

- ・ 大都市圏においては、物産センターに加え、全国的に注目度の高いコンビニ型アンテナショップや「阿波とくしまアンテナショップ」などを活用し、消費者ニーズの把握、本県物産の発掘及び販路拡大を図るとともに、本県観光情報の発信を積極的に行う。

○観光・物産展の開催

観光・物産展を開催し、本県の魅力をより多くの方に伝え、誘客につなげられるよう取り組みます。

【施策展開】

- ・人口集積度の高い大都市圏の百貨店やスーパー等において、積極的に観光・物産展を開催
- ・徳島ヴォルティスの試合会場において、観光・物産展を開催
- ・「徳島阿波おどり空港」に、本県の観光や県産品を紹介するコーナーを設け、県外観光客に対して効果的な情報を発信
- ・農林水産物のPRを行う「新鮮 なっ!とくしま」号において、物産、阿波おどり等の観光、阿波人形浄瑠璃等の「あわ文化」など、徳島の魅力を「まるごと」発信

○総合的な情報発信活動の強化

観光事業者、観光関係団体等、幅広い分野の参画によるプロモーション活動の強化などにより、「観光とくしまブランド」の確立を図ります。

【施策展開】

- ・徳島県の共通コンセプト「vs 東京」のもと、徳島にしかない魅力を全国に発信
- ・徳島県観光キャッチコピーを、観光ポスターや観光パンフレットなどあらゆる機会を活用して、積極的なプロモーション活動を展開
- ・近畿圏等との交流拡大を図るため、近畿圏等の府県と広報紙等のスペースを交換し、本県の魅力を発信
- ・観光事業者、観光関係団体等と連携し、県外の旅行業者に対し、本県の個性豊かで魅力的な観光情報を発信
- ・市町村や観光関係団体の実施するイベント情報を集約し、メールマガジンやイベントガイドによる情報を発信
- ・「おどる宝島!パスポート」の充実・強化
- ・本県の様々な観光素材を効果的にPRする特設ホームページの充実のほかオリジナル리티あふれるPRを実施
- ・JR四国商品説明会による旅行会社向けプロモーションや、関西・中京圏など県外の主要駅での観光プロモーション及び電車広告によるPRなど、JR四国と連携した観光振興を展開

(2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

徳島県の魅力を戦略的に発信するため、「東洋のハリウッド」を目指すなど映画、テレビドラマ等マスメディアへの誘致活動を積極的に図り、観光ブランドとして全国への発信に努めるなど必要な施策に取り組みます。

○ロケーションブランドの確立

映画、テレビドラマ、旅番組等マスメディアを誘致し、全国に本県魅力を発信する機会を広く創出します。

【施策展開】

- ・ 公的関与のフィルムコミッションを中心に、県内を舞台にした映画、テレビ、CM等のロケ撮影の支援・誘致を推進

○マスメディアの露出効果の継続的活用

映画、テレビドラマ等マスメディアにより本県に集まった注目を一過性のものとして終わらせず、継続的な誘客へとつなげられるよう取り組みます。

【施策展開】

- ・ 映画、テレビ、CM等の県内ロケ地やロケ適地を県内外に効果的に発信するため、ホームページやパンフレット等を活用し、全国に発信
- ・ 県外事務所と連携し、大都市圏において積極的にPR活動を実施

(3) 旅行商品づくり

徳島県への観光客誘致のため、旅行会社に対し旅行商品のプランづくりの促進に努めるなど必要な施策に取り組みます。

○旅行会社への積極的な情報提供

様々な観光資源等について積極的に情報提供を行い、旅行商品づくりを促します。

【施策展開】

- ・ 魅力あるツアー商品造の成及び観光資源の効果的なPR活動を行うため、旅行会社やメディアに対して積極的な企画提案を行う。

○着地型旅行商品の造成と発地旅行会社への売り込み

地元に着地した着地型旅行商品づくりを進めとともに、首都圏、中京圏、関西圏の旅行会社に積極的に売り込み、本県への旅行商品造成を促進します。

【施策展開】(再掲)

- ・多様化したニーズに応えるため、地域資源を活用した新たな着地型観光の商品化を推進
- ・着地型旅行商品について官民一体となった造成の取り組みを支援

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・ 県外で県産品を食べられる店舗数	62件	150件
・ 県産品を使ったメニュー・商品開発数 (累計) 〈再掲〉	107件	220件
・ 映画、ドラマ、CM等のロケ撮影支援件数 (累計)	265件	380件

5 国際観光の推進

徳島県が持つ豊かな自然や歴史的、文化的遺産、豊富な食材などを活用した外国人にも魅力高い観光メニューを創出するとともに、観光案内板の外国語表記など外国人観光客が快適に旅行ができるような受入環境の整備により徳島県への誘客を推進します。

(1) 国、地域の特性に合わせた誘客の推進

訪日旅行に対するの関心分野や形態、目的は、国や地域によって特性があることから、それぞれ国・地域の特性を情報収集・把握し、自然、歴史、文化、観光関連施設、食、スポーツ、産業、教育、医療などの観光資源を効果的に組み合わせ誘客に取り組みます。

○海外からの誘客活動の推進

JNTO（日本政府観光局）や海外旅行会社、海外メディア等から誘客対象市場の情報を収集し、国内外で開催される展示会への参加・商談・PR、旅行会社やメディア、教育旅行関係者等の招へい、旅行会社への個別訪問等の誘客活動に取り組みます。

【施策展開】（再掲）

- ・ 訪日リピーターが多い香港、台湾市場に対しては、送客実績のある旅行会社との連携を深め、本県の豊かな自然や体験メニューなど旅行ニーズの高い観光素材をアピールし、団体旅行客をターゲットにした旅行商品の造成を図る。
- ・ 韓国市場に対しては、健康志向の高い熟年層や教育関係者をメインターゲットに、ゴルフやトレッキングなど週末感覚で楽しめる旅行商品の開発や阿波おどりや藍染めなど本県の伝統文化に触れる観光素材を活用し、誘客を図る。
- ・ 東アジア（中国、香港、台湾、韓国）はもとより、東南アジア（シンガポール、タイ等）をも重点エリアとし、今後増加が見込めるイスラム圏も含め、各国の訪日観光ニーズを踏まえ、団体旅行客、個人旅行客の誘客を図る。
- ・ 関西広域連合や四国ツーリズム創造機構の活動を通じた海外における観光プロモーション活動の展開
- ・ 外国クルーズ客船の寄港誘致

○伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

外国人の誘客を図るため、阿波おどりなど、本県ならではの伝統文化等を活用した海外での観光宣伝活動に取り組みます。

【施策展開】

- ・海外で開催される国際規模の大会等において「阿波おどり」を披露し、国際観光の促進を図る。

(2) 効果的な情報発信

多言語版の観光パンフレットをはじめとして、様々な媒体の活用など、効果的な情報発信で、本県の知名度向上に繋がります。

○効果的な情報発信の推進

多言語による、ホームページ、メールマガジン、フェイスブックや、海外メディア、さらには県内在住の留学生等を活用して、外国人に向けた情報発信に取り組めます。

【施策展開】

- ・県の公式ホームページやSNS、メールマガジン、観光情報サイトにおいて、多言語による外国人向けの情報発信を実施（再掲）
- ・関西広域連合や関西地域振興財団が運営するホームページにおいて、多言語による徳島県を含む関西の広域情報の発信を実施（再掲）
- ・観光事業者、団体等が進めるハラル対応の取り組みをホームページで紹介し、県内でのハラル受入環境整備を促進（再掲）
- ・海外メディアを招へいし、県内観光地を取材した内容を、海外のテレビ、雑誌、インターネット等で情報発信
- ・県内在住の留学生等を県内観光地に案内し、SNS等で母国へ情報発信してもらう取り組みを推進

(3) MICEの誘致

企業の奨励旅行や研修、国際学術会議等のいわゆる「MICE」は、大規模な誘客が見込めることに加え、①ビジネス・イノベーションの機会の創造、②地域への高い経済効果、③国・都市の競争力向上といった効果が期待できることから、MICE専門展示会へ出展するとともに、海外旅行会社のMICE部門へのプロモーションを行い、ネットワーク構築や強化に努めます。あわせて地元高等教育機関と連携した国際学術会議誘致活動等を推進します。

○主催者への直接的なPR

国際学術会議や企業研修旅行の主催者へ直接PRします。

【施策展開】

- ・展示会やネットワーク上で得た情報をもとに、主催者に対して、直接本県開催のPRを実施

○地元高等教育機関との連携強化

国際学術会議の開催誘致に欠かすことのできない、地元高等教育機関等の関係機関と連携を強化します。

【施策展開】

- ・地元高等教育機関やコンベンションホール等の関係者と連携を強化し、情報収集に努め、一体となって誘致活動を展開

(4) ニューツーリズムの推進

観光地を巡る従来の旅行形態ではなく、そこでしか体験できないものを求めて訪日する外国人が増えていることから、旅行者のニーズに対応したニューツーリズムの推進に取り組みます。

○新たな旅行商品の造成促進

徳島ならではの観光資源を活かした旅行商品の造成を促進します。

【施策展開】

- ・香港、台湾、韓国、中国、欧米等で遍路に対する関心が高まっていることから、多言語で遍路体験の提案を行い、団体ツアーなどでさらなる誘客に取り組む。
- ・クールジャパンの代名詞である「アニメ」のイベント「マチ★アソビ」を核にした誘客を実施
- ・とくしまマラソンをはじめ、県西部、県南部で開催される各種スポーツイベントによる誘客を実施
- ・学校間の交流と徳島ならではの観光地巡りを組み合わせた教育旅行を実施
- ・LEDや糖尿病診断技術などを活用した産業観光、医療観光を実施

(5) 受入環境の整備

徳島県内における交通、宿泊その他の観光旅行に関する情報の提供、各種案内表示の多言語表記、通訳案内のサービスの向上その他外国人観光客の受入環境の整備に必要な施策に取り組みます。

○多言語表記の推進

本県を訪れた外国人観光客の利便性を向上するため、観光に関する情報の多言語表記に取り組みます。

【施策展開】

- ・観光案内板等の外国語表記を促進し、外国人観光客の利便性の向上を図る。
(再掲)

○外国人観光客への案内サービスの向上

多言語による案内サービスの向上やコミュニケーション方法の充実などにより、外国人観光客の利便性向上に取り組みます。

【施策展開】

- ・とくしま国際戦略センターにおいて外国語対応相談員を配置し、観光案内を含む外国人からの各種相談に対応、観光情報の外国語による提供

○観光情報収集の利便性向上

外国人観光客がスマートフォンやタブレット等を利用して、多言語で情報収集できる環境を整備、促進します。

【施策展開】

- ・県の観光情報サイト「阿波ナビ」多言語版のスマートフォン対応の整備や、国が進める訪日外国人旅行者向けの無料公衆無線LANの整備促進の取組みについての情報提供

(6) 海外との相互交流

国際観光の促進を図るために、徳島県と外国との間における姉妹都市交流や経済交流等の海外との相互交流の促進等に必要な施策に取り組みます。

○海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

「友好交流都市」との都市間交流を基盤として、様々な企業、団体等とのネットワーク化を図り、相互交流の活性化に取り組みます。

【施策展開】

- ・本県と友好交流関係にある地域との間で、経済、文化、教育、スポーツ等、幅広い分野において交流を実施

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・外国人延べ宿泊者数<再掲>	32千人	80千人
・外国人入込客数<再掲>	38千人	100千人

6 広域観光の推進

徳島県内の各観光地の連携、市町村間の連携、さらには近隣府県との連携により観光集客力を高めるよう広域観光施策を推進します。

(1) 広域的な観光地の形成

四国の玄関口として、「鳴門の渦潮」、「阿波おどり」などの多様な観光資源が集積している県東部、豊富な自然を活用した体験活動ができる県南部、日本の原風景を色濃く残し、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」を有する県西部などそれぞれの圏域ごとの特性を生かした広域的な観光地の形成とそれらを結ぶ周遊ルートの構築を進めるなど、魅力ある商品の開発等に必要な施策に取り組みます。

また、観光客の滞在促進を図るため、徳島県内の各地域間の連携により、点から線、線から面へと観光資源を結ぶ魅力的な観光地の形成など、市町村と連携しながら必要な施策に取り組みます。

○観光地の連携による滞在型観光の推進

地域の観光地が連携し、それぞれの特性を生かした魅力ある圏域において、周遊型観光の推進を図るなど、長期間の滞在が可能となるような取組みを推進します。

【施策展開】

- ・複数の観光地が連携して、共同で観光PRを実施
- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」において民間事業者等が連携・協働して取り組む広域的な事業を支援し、「にし阿波」の魅力を発信
- ・県南の豊かな自然を活用したアウトドアスポーツイベントの開催や「四国の右下」の魅力を感じることができる観光づくりを実施

(2) 四国4県、関西圏及び瀬戸内エリア等での連携

近隣府県との広域的連携の中で、他府県には無い良さを発信し、広域連携のスケールメリットを活かした施策に取り組みます。

都市圏及び外国からの観光誘客を図るため、四国4県、関西圏及び瀬戸内エリアでの連携による県域を越えた広域観光への取組みの促進等に必要な施策に取り組みます。

○近隣府県と一体となった観光への取組み

四国や関西圏及び瀬戸内エリアでの連携により、相互補完による魅力の向上を図るとともに、スケールメリットを活かした効果的な観光誘客に取り組めます。

【施策展開】

- ・ 四国ツーリズム創造機構の活動を通じて、国内外に向けた観光プロモーションをはじめ、四国はひとつとして官民一体となった観光誘客を展開
- ・ 関西広域連合等の活動を通じて、海外観光プロモーションをはじめ、関西一体となった国際観光を推進
- ・ 「関西広域連合」への参画による国際観光を中心とする広域観光推進事業の共同実施
- ・ 大鳴門橋でつながる、徳島と淡路の観光、文化、産業など様々な分野での相互交流をさらに発展させるとともに、徳島の持つ地域資源を近隣府県へ広く情報発信
- ・ 兵庫県と連携し、貸切バスへの支援を実施
- ・ 瀬戸内ブランド推進連合の活動を通じて、国内外に向けた観光プロモーションをはじめ、瀬戸内7県が連携した観光の推進

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・ ひょうご・とくしまツーリズムバス助成件数 (累計)	267件	410件

7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

多くの人が集まる場には、活気とにぎわいが生まれ、そして人や物、情報など様々な交流が図られ、地域の活性化が期待できます。
阿波おどりに代表されるような多くの人でにぎわう徳島づくりを目指して、「阿波とくしま」にふさわしいにぎわいの創出を推進します。

(1) イベントの開催などによる集客

徳島県内各地で開催されているイベントの活用や新たな徳島発のイベントを開催することなどにより集客を図り、活気とにぎわいの創出に取り組みます。

○既存イベント等の改善や組み合わせによる集客力の向上

既存イベントの魅力を増加させるため、「阿波おどり」や旬の食材、県産品など本県ならではの地域資源と組み合わせ、より一層地域の特色を出すなどの工夫を行い、また他のイベントと連携させるなど、より集客力を高める取組みについて検討します。

【施策展開】

- ・夏の「阿波おどり」はもとより、春の「はな・はる・フェスタ」、秋の「おどる宝島！とくしま博覧会」における阿波おどりを充実するとともに、「阿波おどり会館」の活用、有名連の練習風景もPRし、年間を通して、「阿波おどり」をフル活用（再掲）
- ・イベント開催において、阿波おどりや県産品を積極的に活用
- ・「渦の道」、「あすたむらんど徳島」、「アスティとくしま」などの交流拠点を活用したイベントの充実
- ・「とくしまマラソン」の来県参加者に徳島の魅力を満喫していただき、新たな来客につなげるため、「マラソン後のおもてなし」としての交流イベント等の開催を応援
- ・本県の豊かな自然や歴史、文化に加え、各市町村の地域イベントや体験型観光などのほか、伝統芸能や特産品など、観光と物産の両面で「とくしまの魅力」をまるごと情報発信
- ・市町村等が行う観光イベント事業を支援し、個性と魅力にあふれた地域づくりを推進
- ・徳島県文化の森総合公園で開催される企画展や各館の連携事業を広く全国にも情報発信

(2) コンベンション誘致

徳島県内どこでも活気にあふれ、にぎわう地域づくりを推進するため、国際学術会議、学会、スポーツ大会、などの誘致の促進及び開催の円滑化に関し必要な施策に取り組みます。

○コンベンション実施主体への助成

多くの県外の人が集まるコンベンションを行う主催者に対して、開催経費や郷土芸能の招へい費用等の支援を行うことで、その誘致を促進します。

【施策展開】（再掲）

- ・コンベンション情報の収集
- ・コンベンションの主催者に対する開催経費や郷土芸能の招へい費用、会場使用料助成など、効果の高い支援を実施
- ・商談会、個別営業活動により、コンベンションの助成内容を積極的に発信

(3) スポーツによるにぎわいづくり

プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用するなど、スポーツ文化の振興やにぎわいの創出につながる施策に取り組みます。

○交流人口の増加

本県の魅力や県民挙げての「おもてなしの心」を全国に情報発信できる「とくしまマラソン」などスポーツ大会の開催や、ラフティングやサーフィンなど豊富な自然環境でのスポーツ体験により交流人口の増加を図ります。

【施策展開】

- ・四国最大規模を誇る「とくしまマラソン」を活用し、徳島の魅力を国内外に発信
- ・県外企業、大学等のスポーツ合宿誘致や交流試合の実施による各施設の有効利用や交流人口の増加を図る。
- ・「自転車王国とくしま」ブランド発信のため、既存イベントの検証やブランド化の検討をし、情報発信を行うとともにサイクルスポーツイベントの充実や情報を発信
- ・就職支援協定締結大学等の強豪校に対し、合宿を誘致することにより、大学との継続的な連携交流を推進
- ・「四国の右下」の魅力をダイレクトに伝え、アウトドアスポーツを提供するとともに、普段から「四国の右下」の魅力を体感できる環境づくりを進める。
- ・吉野川で行われているラフティングは世界でも有数のスポットであり、情報を国内外に発信

- プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわいの創出
 プロスポーツを活用したスタジアムのにぎわい創出や、本県を全国にPRする取組みを推進します。

【施策展開】

- ・「徳島ヴォルティス」、「徳島インディゴソックス」両チームの集客力や情報発信力を活用した各種イベントを開催
- ・徳島ヴォルティスのアウェイ及びホーム戦において観光プロモーション・物産販売を実施

個別目標

数 値 目 標 (項 目)	現 況 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成30年度)
・コンベンション参加者数 (中四国規模以上) <再掲>	96千人	130千人
・「とくしまマラソン」2万人大会の開催 <再掲>	1万人大会	2万人大会

VI 徳島県観光振興基本計画推進にあたって

1 推進体制

観光振興の推進にあたっては、地域づくりの主役である県民や、観光振興における主体的役割を担っている観光事業者をはじめ、県、市町村、観光関係団体等がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に連携し合って施策を進めていく必要があります。

このため、県民や、市町村、観光事業者、観光関係団体などがそれぞれ担うべき役割を明らかにし、官民一体となって観光振興に取り組みます。

2 各主体の責務と期待される役割

県の責務

県内各地域における多様な主体による自発的な取組み、また、地域分野を越えた連携の活発な展開を促進させるため、観光立県に向けた様々な施策の庁内横断的な展開を図り、本計画に基づく施策を戦略的かつ積極的に推進します。

市町村との連携

地域における観光振興の重要な担い手である市町村は、地域特性に応じた観光施策を策定・実施することが期待されています。県としても、市町村との緊密な連携の下、市町村に対し必要とされる情報提供や助言などの支援に取り組みます。

県民の役割

観光振興の取組みは、地域づくりや来訪者との交流を通じ、産業活動、社会活動、文化活動を活発化し、魅力ある活力に満ちた地域社会の形成に大きく貢献するということを、一人一人が理解することが重要です。

さらに、地域における観光地づくりへの積極的な参画や来訪者に対する「おもてなし」の実践などが期待されています。

観光事業者の役割

観光振興を図るためには、観光事業者に留まらず、幅広い産業分野を支える全ての事業者の活動が活発に展開されることが必要となります。

このため、事業者自らが創意工夫を凝らし、地域に存在する様々な資源を活用した事業展開を図るとともに、他の事業者との連携による付加価値の創出などを図ること、また、県の実施する施策への協力などが期待されています。

観光関係団体の役割

民間における連携を促進するためには、観光に関する活動を行う観光協会、商工会議所や商工会、また、各種業界団体等における観光関係団体がその中心的な役割を担う必要があります。

そこで、団体や地域を超えた相互連携の強化を図り、各分野における観光の推進役として、自らが積極的に徳島の魅力のPRに取り組むほか、事業活動を通して県民の観光に対する関心と理解を深め、おもてなしの気運の醸成に寄与することが期待されています。

3 広報及び啓発

県民や観光事業者、観光関係団体の観光の振興に対する意識の高揚及び観光の振興に関する取組みへの積極的な参画が促進されるよう、観光の振興に関する広報及び啓発に努めます。

4 観光に関する基礎データの整備

観光の振興に関する施策を効果的に実施するためには、その基礎となる正確なデータと精度の高い分析が必要です。そのため、観光客に対して「宿泊日数」、「訪問回数」、「交通手段」、「旅行費用」などのアンケートの実施や観光に関する統計の整備及び充実を図り、観光ニーズ、観光動向の把握及び分析を行うとともに、その情報を積極的に提供します。